



時を超え美しく
ひと輝く 歴史都市・京都

平成19年度

**「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」
報 告 書**

はじめに

子どもたちにとって安全で安心できる地域社会を築くためには、子どもたち自身の危険予知能力や危険回避能力等を高めるとともに、学校はもとより、家庭や地域、関係機関が互いに連携しながら子どもたちの安心・安全に関する取組を充実・発展させていくことが重要となっています。

京都市では、「地域の子は地域で守り育む」という伝統を基盤として、これまでから保護者や地域住民の方々、関係機関の御理解・御協力・御参画を得ながら、地域社会全体で学校安全や子ども安全に関する取組を推進してまいりました。現在、全市至るところで、PTAやスクールガードの方による地域パトロールの充実や「みまもり隊」等による子どもたちの見守り活動、また、あいさつ・声かけ運動の充実、安心・安全に関する啓発活動など、様々な取組が展開されているところです。

さらには、こうした取組を子どもたちの安全に止めることなく、地域全体の安心・安全を目指した取組として発展させ「無理なく継続し、地域に定着させていこう」という考えが広がってまいりました。子どもたちはもちろん、すべての住民にとって安心・安全な地域社会の実現を目指し、地に足をつけた取組を弛みなく着実に進めていくことが大切です。

本冊子は、平成19年度に京都市で実施した「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」（文部科学省と警察庁の連携事業）の報告書として作成いたしました。

本冊子が、地域ぐるみで進める安心・安全なまちづくりの一助となれば幸いです。最後になりましたが、報告書の作成にあたり、ご協力賜りました関係各位に対しまして、心より感謝申し上げます。

目次

「平成19年度 地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」事業概要

第1章 モデル地域における実践的な取組

子どもが生き生きと活動できる安心安全のまちづくり	正親小学校
子どもの安全から、安心・安全のまちづくりに	松ヶ崎小学校

第2章 スクールガード養成講習会の開催（敬称略：本文同じ）

■第一回

テーマ：「子どもを危険から守るには」	
講師：子どもの危険回避研究所 所長	横 矢 真 理

■第二回

実践発表：	正親小学校 学校安全主任	田 中 秀 樹
パネルディスカッション：テーマ「地域安全マップの充実と子ども安全」		
・コーディネーター：	同志社大学大学院 教授	谷 口 知 弘
・パネリスト：（学校）	山ノ内小学校 教務主任	久 保 賢 洋
（地域）	上京平安レディース	麻 田 恵美子
（PTA）	洛央小学校 PTA	駿 河 悦 子
（関係機関）	右京警察署 生活安全係長	杉 野 孔 明

■第三回

実践発表：	松ヶ崎小学校 校長	白 石 悦 徳
パネルディスカッション：テーマ「見守り活動と地域安全」		
・コーディネーター：	京都産業大学大学院 教授	藤 岡 一 郎
・パネリスト：（学校）	朱雀第三小学校 校長	赤 羽 清
（地域）	六原学区自治連合会 事務局長	菅 谷 幸 弘
（PTA）	松ヶ崎小学校学校運営協議会 会長	佐 藤 佐
（関係機関）	文化市民局地域づくり推進課 まちづくりアドバイザー	佐 藤 友 一

■第四回

テーマ：「地域防犯活動と子ども安全」	
講師：京都市スクールガード・リーダー	大 槻 惇
講師：京都府警本部犯罪抑止対策室 室長補佐	野 村 幸 雄

第3章 スクールガード・リーダーによる小学校区の巡回指導

地域学校安全指導員実施要綱
スクールガード・リーダー一覧表
スクールガード・リーダー連絡協議会

第4章 資 料

地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業委託要項（文部科学省）
京都市子ども安全ネットワークニュース
子どもを共に育む京都市民憲章

平成19年度 「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」 事業概要

1 趣旨

学校の管理下における事件・事故が大きな問題となっている近年の状況を踏まえ、家庭や地域及び関係団体・機関と連携しながら、学校の実情にあった学校安全ボランティア（以下「スクールガード」という）の安全管理に関する取組を推進する。（文部科学省と警察庁が連携した委託事業）

2 内容

- (1) 全市で「モデル地域」を2地域（松ヶ崎小学校、正親小学校）指定し、学校運営協議会を活用して「学校安全推進委員会」を開催し、地域ぐるみで学校安全に関する実践的な取組を実施する。

- 「学校安全推進委員会」（2回開催、時間は1回1時間30分程度）
 - *メンバー：学校、PTA、各種団体、スクールガード団体、所轄警察署、学識経験者、教育委員会等
 - *内容： 1回目…挨拶・趣旨説明・学校の防犯に関する取組・スクールガードの実践・情報交換、警察及び学識経験者からの助言
 - 2回目…挨拶・活動の成果と課題・情報交換・警察及び学識経験者からの助言
- 経費（物品購入予算）

モデル地域においては、学校安全関係の取組に対する消耗品を購入し、学校安全の整備を行う。

（例）腕章、帽子、防犯ブザー等の防犯活動啓発用品及び防犯活動関連事務用品

- (2) スクールガードを養成するための「京都市スクールガード養成講習会」を全市で年4回開催する。

- 第1回（6月）講演会
- 第2回（10月）シンポジウム形式（モデル校の実践発表をもとに意見交換・シンポジウム）
- 第3回（11月）シンポジウム形式（モデル校の実践発表をもとに意見交換・シンポジウム）
- 第4回（2月）講演会
 - ※シンポジウム形式
 - ・コーディネーター及びアドバイザー：学識経験者（藤岡一郎 京都産業大学教授、谷口知弘 同志社大学教授）
 - ・シンポジスト：「モデル地域」の学校代表、PTA代表、地域代表、見守り隊代表、スクールガード・リーダー、警察・行政担当者等

- (3) 警察官OBを地域学校安全指導員（以下「スクールガード・リーダー」という）に委嘱し、校区の巡回指導や登下校時の巡回パトロール等を実施する。また、学校は必要に応じて、実情に合ったスクールガードの取組に対して専門的な考え方を聞くことができる。

- スクールガード・リーダー
 - ・1人のスクールガード・リーダーが数校の小学校を担当する。
 - ・活動は週2日（火・金）で、1日あたり2校区の巡回指導を原則とする。ただし、見守り隊等の活動状況や学校及び地域事情等を踏まえ、曜日を変更した活動や下校時のみの活動も可とし、活動日を計画する。
 - ・活動は長期休業期間中を除き、年間90日を上限とする。
 - ・スクールガード・リーダーは、帽子・腕章・名札を付けて巡回パトロール等を行い、終了後、職員室の「活動報告書」に記入する。また、管理職に状況等の報告を行う。
- 学校
 - ・月はじめに教育委員会から送付する「活動予定表」により、活動日を確認する。
 - ・スクールガード・リーダーが記入した「活動報告書」を確認し、学校長確認印欄に捺印する。
 - ・毎月末、「活動報告書」のコピーを教育委員会へ送付する。
 - ・年度末には、「活動報告書」の原本をまとめて、教育委員会へ送付する。

第1章

モデル地域における 実践的な取組

平成19年度 地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業

子どもが生き生きと活動できる安心安全のまちづくり

京都市立正親小学校 校長 小上 嗣徳

①地域(校区)のようす

本校は、明治2年に上京十番組小学校として開校された歴史と伝統の息づく学び舎である。現在、少子化、高齢化が進行し児童数約150名の小規模校である。校区は、京都市市街の中心である上京区に位置し、千本通りなどのバス通りのほか小路が多く交通量も多い。特に、自転車・バイクの走行が目立つ。交通安全会や防犯推進委員会など各種団体の地域活動も活発である。

②取組の概要

(1) 学校での取組

地域ぐるみの教育は学校ぐるみの取組からとして、「自ら危険に気づき、安全に行動する子の育成」を安全教育の目標として設定し、安全学習や安全指導を核にして交通・生活・防犯・防災の安全能力(危険回避能力)の向上を目指した。

取組に当たっては、学校安全年間計画に基づき系統的、計画的に指導するとともに、安全ノートの活用を推進してきた。また、安全管理の充実に努め、よりよき安全教育推進の環境を整備するよう努めた。

そして、地域ぐるみは学校ぐるみの取組からとして、地域の教育力と連携し、小規模校の特色を活かして「たてわりでの学習」を充実させ、学級にとどまることなく、町別での学習や小グループのたてわり集団での学習を行い、互いに学び合い、高め合う集団づくりを目指すことを通して、総合的に児童一人ひとりの安全能力向上を育むよう取り組んだ。



【活動例】

○子ども安全パトロール隊の取組〔安全学習・安全指導・総合的な学習(13単位時間)〕

* 6月・11月の2回実施(地域・保護者PTA・上京警察署の協力支援)

* ねらい:「安全マップ作りを通して、校区の危険箇所を知り、子ども自らが自分や友達の命を危険から守る安全能力を育てる。」



* 内容

- ・全校児童を町別のたてわり27グループに分けて全校的活動を実施。
- ・「こども110番のいえ」を訪問し、家の方とのコミュニケーションをもつ。
- ・通学路を実地に踏査して、危険に気づき安全な行動を考える。
- ・当面及び事前事後のやりとりの活動や行動の中で危険に気づく能力を高める。
- ・安全マップを作成する。



「こども110番のいえ」訪問



(2) 地域・保護者(PTA)・関係機関と連携した取組

子どもたちが、日々安心して安全な生活が送れる街づくりの一環として、「正親見守りたい」の取組を推進してきた。「見守り隊」から「見守りたい」の気持ちで、『気楽に、気長に、危険なく』を基本に地域・保護者(PTA)・学校との継続的な取組にしてきた。地域の交通安全・防犯推進などの各種団体や上京警察署など関係機関と連携して、自転車を中心とした交通安全教室や児童を対象にした防犯教室、不審者の侵入を想定した防犯避難訓練、さらに低学年児童と保護者を対象にしたCAPワークショップの活用など様々な活動に取り組んできた。とりわけ、「子ども安全パトロール隊(安全マップをつくろう)」や「正親見守りたい」の活動は、子どもたちと地域・保護者(PTA)との豊かなコミュニケーション作りとなった。

⑦ 「正親見守りたい」の活動

児童が登校するすべての授業日に活動した。PTAを含めた地域の各種団体全てで組織した。



⑧ 「自分の命は自分で守る」が基本

PTAから全児童に防犯ブザーを寄贈していただいた。上京警察の方から防犯ブザーの活用方法についても教えていただいた。



⑨ 「子ども安全パトロール隊」の支援活動

マイ安全マップをつくろう(地域と共に)「子ども110番のいえ」の訪問や通学路の安全点検を実施した。



③ 成果と課題

「正親見守りたい」の取組を地域、保護者、PTAが一体となって活動したことによって、「地域の子は地域で育てる」意識が高まってきた。そして、継続的な取組を通して地域のコミュニティを豊かにしていく大きなひとつの機会となった。

地域ぐるみで、子どもの「マイ安全マップをつくろう」の取組を支援した結果、子どもの防犯・安全意識の向上をもたらした。

今後、「正親見守りたい」の活動を、『気楽に・気長に・危険なく』をキーワードに継続的な取組をしていくとともに、地域・保護者(PTA)・学校の連携を一層豊かにして、「地域ぐるみの教育」と「安心安全の街」づくりを目指したい。



安心安全のまちづくり 正親子ども・地域「正親安全見守りたい」活動

①気楽に ②気長に ③危険なく

事務局 正親小学校

	下校時パトロール
月	体育振興会・民生児童・老人福祉・地球温暖化
火	自主防災・保健協議会・鶴令会
水	交通安全会・少年補導・母子寡婦福祉会
木	P T A・おやじの会
金	平安レディース・防犯推進・なでしこ会・消防分団

活動地域 正親小学校通学地域 およそ北は笹屋町通り 南は下長者町通り
西は六軒町通り 東は松屋町通り

防犯パトロールの時間帯

- ・事件、事故の発生は、圧倒的に下校時に多い
- 登校時 午前 8時～8時40分 を目安に
- 下校時 午後 3時前～5時 を目安に
- *学校の朝の登校時間は8時10分から30分までの間に登校するよう指導しています。
- *下校については学年により、曜日によりバラつきがあります。最終は4時30分
- *児童館（学童）は、午後3時に集団で行くことにしています。
- *登校時 交通安全会（月初め・学校安全日） PTA（適宜）の見守り

方法 自転車又は徒歩 ①気楽に ②気長に ③危険なく

- ①3時前に学校正門前に集合しパトロール開始を基本に（腕章・ジャンパーなど着用）
- ②定点の立ち番
- ③巡回
- ④気がついた点などは学校に連絡
- ⑤危険に出会ったら迷わず110番通報
 - *1回のパトロール人員、3名を基準に（複数での行動がより安全で安心です）
 - *巡回立ち番場所などは、同じ曜日分担の団体と調整してください。

**できる範囲でパトロールしましょう
無理せず 安全に**

平成19年度 正親子ども地域安全見守りたい活動表 10・11月分気楽に 気長に 危険なく

月日	曜日	午前	午後	備考	月日	曜日	午前	午後	備考
10月1日	月	交通安全会・S	体振・民生・老福・地温暖		11月1日	木	交通安全会・S	PTA・おやじの会	
10月2日	火	S	自主防・保健・鶴令・日赤		11月2日	金	S	レディ・防犯推・なでしこ・消防	
10月3日	水	S	交安・少補・母子・共募		11月3日	土	正親学区敬老のつどい	（文化の日）	
10月4日	木	S	PTA・おやじの会		11月4日	日			
10月5日	金	S	レディ・防犯推・なでしこ・消防	前期終業式	11月5日	月	S	体振・民生・老福・地温暖	
10月6日	土				11月6日	火	S	自主防・保健・鶴令・日赤	SG
10月7日	日		区民体育祭		11月7日	水	S	交安・少補・母子・共募	
10月8日	月			陸上記録会	11月8日	木	S	PTA・おやじの会	
10月9日	火			秋休み	11月9日	金	S	レディ・防犯推・なでしこ・消防	文化の集い
10月10日	水	S	交安・少補・母子・共募	後期始業式	11月10日	土			創立記念日
10月11日	木	S	PTA・おやじの会	参観懇談	11月11日	日			
10月12日	金	S	レディ・防犯推・なでしこ・消防	参観懇談	11月12日	月	S	体振・民生・老福・地温暖	
10月13日	土		PTA コーラス交歓会（正親）		11月13日	火	S・SG	自主防・保健・鶴令・日赤	
10月14日	日				11月14日	水	S	交安・少補・母子・共募	
10月15日	月	交通安全会・S	体振・民生・老福・地温暖		11月15日	木	交通安全会・S	PTA・おやじの会	
10月16日	火	S	自主防・保健・鶴令・日赤		11月16日	金	S	レディ・防犯推・なでしこ・消防	たてわり町清掃
10月17日	水	S	交安・少補・母子・共募		11月17日	土			
10月18日	木	S	PTA・おやじの会		11月18日	日	上子連ドッジボール大会	翔鸞小	
10月19日	金	S	レディ・防犯推・なでしこ・消防		11月19日	月	S	体振・民生・老福・地温暖	個人懇談会
10月20日	土				11月20日	火	S	自主防・保健・鶴令・日赤	SG・個人懇談会
10月21日	日				11月21日	水	S	交安・少補・母子・共募	個人懇談会
10月22日	月	S	体振・民生・老福・地温暖		11月22日	木	S	PTA・おやじの会	個人懇談会
10月23日	火	S	自主防・保健・鶴令・日赤		11月23日	金			勤労感謝の日
10月24日	水	S	交安・少補・母子・共募		11月24日	土			
10月25日	木	S	PTA・おやじの会		11月25日	日			
10月26日	金	S	レディ・防犯推・なでしこ・消防	安全講座ルビノ	11月26日	月	S	体振・民生・老福・地温暖	
10月27日	土				11月27日	火	S・SG	自主防・保健・鶴令・日赤	大文字予選会
10月28日	日				11月28日	水	S	交安・少補・母子・共募	マラソン大会
10月29日	月	S	体振・民生・老福・地温暖		11月29日	木	S	PTA・おやじの会	
10月30日	火	S	自主防・保健・鶴令・日赤	合同運動会	11月30日	金	S	レディ・防犯推・なでしこ・消防	
10月31日	水	S	交安・少補・母子・共募						

*ありがとうございます。健康に留意してお願いいたします。
 *朝の登校時間は8時10分から30分の間に登校するよう指導しています。下校は、3時頃から4時過ぎが多いです。
 *下校時間（放課後開放）は、11/14まで午後4時30分です。10月5日・10日は給食有り平常下校
 *文化の集いのある11月9日の午後就学時健康診断があり午後2時下校予定です。（高学年除く）

松ヶ崎あんしんネットワークの取組

「子どもの安全から、安心・安全のまちづくりに」「松ヶ崎の子どもは、松ヶ崎でまもる」

京都市立松ヶ崎小学校 校長 白石 悦徳

①校区の様子

左京区に位置する松ヶ崎地域の歴史は古く、「妙法」の送り火は現在でも地域の人々によって連綿と伝えられており、地域の伝統芸能である「題目踊り」や「さし踊り」も伝承・保存されている。校区は、北に松ヶ崎の東山（法）・林山・西山（妙）と続く里山と宝ヶ池をひかえ、南は北大路通りまで、東は高野川、西は上賀茂校区に接する深泥池まであり、比較的広い地域である。戦後から現在に至るまでに多くの農地は宅地となり、田畑の面積は往時の1割ほどに減っている。特に、校区内を横断する北山通と地下鉄の開通により、急激に町の様子が変わってきた。こうした町の成り立ちは、学校に対する意識や自治意識にも影響を与えている。

②取組の概要

①見守り活動の開始

子どもが犠牲となる事件が続発する中、平成17年度には、PTAを中心に「安全マップ」の点検、学校とPTAで「学校安全会議」を立ち上げるなどの取組が始まり、学校とPTA本部委員会がリードして「見守り活動」を開始することにした。そして、「地域ぐるみの学校づくり」の一環として安心・安全の取組「あんしんネットワーク」をさらに充実させることを目指してきた。

②活動のシンボル・マーク



見守り活動を続けていくためには、参加・協力者の一体感が大切であると考え、活動のシンボルマークを作ることにした。「犬」のマークにしたのは、パトロールというイメージと重なりやすいことや、デザインによっては誰が見ても「かわいい」と思える好ましく感じることができること。そして、子どもにも親しみがもてること、さらに、学区内の人々が「私もほしい・付けてみたい」と思わせるようなものが最適と考えた。

本校教員がデザインして、手作業で名札の形にした。

③広報活動「松ヶ崎あんしんネットワーク通信」

見守り活動について保護者・地域に知らせることが重要であると考え、活動主旨やスローガンなどを繰り返し広報し、地域団体にも取り組んでいる様子を知らせ、参加・協力を呼びかけた。「松ヶ崎あんしんネットワーク通信」を発刊し、「できる時に



できる所で」「子どもの安全から、安心・安全のまちづくりに」「松ヶ崎の子どもは、松ヶ崎でまもる」などの短いフレーズを強調して訴えてきた。

④PTA・地域団体との連携「松ヶ崎あんしんネットワーク」

松ヶ崎あんしんネットワークは、そのスローガンに「子どもの安全から、安心・安全なまちづくりへ」を掲げている。そこで、地域各種団体への協力要請を活発に行い、「安心・安全のまちづくり」に繋がるように働きかけた。地域全体の活動となっていくことを目指して団体名を「松ヶ崎あんしんネットワーク」とし、全ての団体と保護者・地域協力者が一堂に会した「松ヶ崎あんしんネットワーク」の総会を開催した。



⑤学校運営協議会「子ども安全企画推進委員会」の発足

本校では、平成19年3月に学校運営協議会「松ヶ崎コミュニティ・スクール」を立ち上げた。企画推進委員会として「子ども安全」委員会を設けた。「子ども安全」委員会ができたことによって、子どもや学校安全にかかわる企画・推進を担う組織ができ、20を超える参加協力を総括するシステムが出来上

がった。PTAが本年度取り組んだ「地域ブロック別見守り活動」についても、この場で提案・協議されている。さらに、多くの人の防犯意識や危機感を高めてるために様々なアイデアを出し合って活動を推進してきた。



パトロール用のプレート



オリジナルのエコバック



子ども110番協力の家



安全マップの改訂作業



松ヶ崎版こども110番



1年生のお迎え当番

⑥児童への安全指導

地域の安全対策は重要である。それ以上に児童の安全指導も重要であると考えている。本校では、年間の安全指導は、すべての教育活動の中で、また学級指導においても行っている。安全ノートの活用など、子どもが自分で自分の命を守る力を養うことが重要である。

本年は、低学年児童と保護者を対象に、防犯意識の向上を図るためCAPワークショップの学習を行った。



③成果と課題

①教職員・保護者・地域の意識の変化と地域ぐるみの学校づくり

「松ヶ崎あんしんネットワーク」の取組は、教職員・保護者・地域の方それぞれの意識に変化をもたらした。毎週の一斉見守り活動では教職員が早朝から出勤し、校区内のポイントで見守り活動を行うように

なり、保護者にも自分たちの子どもは自分たちで守らなければならないという認識が深まったように感じる。子育てと仕事を抱えた保護者も「できる時に、できる所で」という意識が出てきているのではないかな。

一方、新旧の住民意識や考え方の違いが存在する地域ではあるが、この取組を通して活動が活性化された団体もあり、様々な行事への参加も多くなった。また、地域団体メンバーと子どもたちとの関わりも増え、朝の挨拶などから子どもたちの様子や実態をよく見ていただくようになってきている。

このように「地域ぐるみの教育活動」を推進する学校の姿に、学校理解や信頼関係が深まり、住民が一体化した「まちづくり」を進める様々な取組において連携がより一層深まっているのではないかなと思われる。

②活動の継続と予算措置

いかなる地域でも、子どもが犠牲となる事件が発生すれば見守りの体制を強化することは当然である。しかし、その活動を持続することは大変困難を伴うものである。本校においても、これまで大きな事故・事件は発生していないが、それだけに様々な工夫をして、保護者・地域住民の危機意識を継続させる取組は必要である。

また、府や京都市の助成を受けて、ネームプレートやパトロール用のパーカーなどをそろえた。地域の保護者・住民が防犯意識を持って活動している地域であることをアピールすることは非常に重要なポイントである。今後は取組の活性化と継続を図る上で、取組の予算化が必要となってくる。そして、学校評価システムを有効に活用して、保護者や地域住民の意識や課題を把握して、改善に向けた取組を工夫していきたい。



子ども安全部会での連携



地域ブロック別見守り活動



保護者・地域の見守り活動

松ヶ崎 あんしんネットワーク
 つうしん (地域の子は、地域で守ろう)
 学校安全会議や「子ども安全」の取組について発信しています。http://www.edu.city.kyoto.jp/matsugasaki/

平成19年4月17日 第15号
 京都市立松ヶ崎小学校
 松ヶ崎小学校PTA

新年度を迎え、56名のピカピカの1年生が入学しました。
 (子ども見守り隊をよろしくおわがします！)

4月11日、今年度1回目の「一斉見守り活動」をしました。明日が2回目です。ご協力ください。



子どもが被害者となる事件が発生する中、昨年1月より、学校とPTAが、学校の安全や子どもの安全について考える場として、『学校安全会議』が設けられました。その話し合いの中で、『学校では、防犯カメラやセンサーなどハード面での整備も進んでいる。効果的な対策は、人への安全教育やPTA防犯ベルの配布なども行われている。しかし、今、もっとも求められている効果的な対策は、人々の目による子どもの見守りである。』という意見のもと、『松ヶ崎あんしんネットワーク』の発足を、『安全宣言』の取組が始まりました。

昨年11月25日には、20の協力団体が一堂に集い、松ヶ崎あんしんネットワークの発足を、『安全宣言』をしました。

「松ヶ崎あんしんネットワーク」安全宣言
 松ヶ崎地域の安心・安全は、私たちが自分の問題としてどうえ、地域住民の力で、地域に危険が近づきにくい環境をつくることにおよびます。私たちは、「松ヶ崎あんしんネットワーク」の発足にあたり、次のことを宣言します。

1. 私たちは、地域の宝である子どもと地域の安全を見守ります。
2. 私たちは、できる時に、できる場所で、子どもへの安心・安全にむかいます。
3. 私たちは、地域の安全を守るネットワークを広げ、安心に生活する町づくりに参画します。

今年度の「一斉見守り活動」も、毎週水曜日です。
見守り活動の基本は、毎日、できる時間帯に、自宅周辺(出来る場所)で。

PTAでは、見守り活動にご協力いただける保護者の皆様を募り、一部当番制で実施しています。現在100名ほどの保護者が、1ヶ月に1・2回の割合で、見守り隊の一斉見守り活動の日に参加しています。

見守りは、日常的な活動が基本であり大切なことです。学校の登下校の時間帯だけではなく、普段の生活の中で見守り、日常的な活動が基本であり大切なことです。学校の登下校の時間帯だけではなく、普段の生活の中で見守り、日常的な活動が基本であり大切なことです。学校の登下校の時間帯だけではなく、普段の生活の中で見守り、日常的な活動が基本であり大切なことです。

『子どもの安全から、地域の安全へ』松ヶ崎あんしんネットワーク通信
 保護者・地域の参画意識を高める広報活動の取組
 松ヶ崎小学校

1 取組の内容・方法
 (1) 学校安全会議の開催
 PTA本部・地域委員と学校が一堂に会して『学校安全会議』開催し、子どもが犠牲になる事件や事故を防ぐための具体的な取組を話し合いました。また、安全マップの見直しや、『松ヶ崎子ども110番の家』の設置などの活動をさらに充実させてきました。

(2) 子ども見守り隊の活動開始
 子どもの安全を願う保護者のニーズが高まる中、学校と保護者で『松ヶ崎あんしんネットワーク』を立ち上げ、見守り活動を開始しました。活動「子どもの安全から地域の安全へ」との願いを、子どもと地域の防犯は考えられない。

(3) 「松ヶ崎あんしんネットワーク通信」の発行
 小さな単位での活動から地域の取組に拡大するためには、まず、この取組を多くの保護者・地域住民に知ってもらうことが必要だと考えました。そこで、この取組の広報をするための広報紙を発行することにしました。紙面の工夫は、活動の様子やわかるもの、すぐに読める内容など。

(4) キャラクターの作成
 見守り活動には見守り隊とわかるものが必須となる。活動を周囲に周知することが防犯効果につながる。また、子ども・保護者・地域の方にも親しみを持ってもらえるものがベストである。

(5) 「松ヶ崎あんしんネットワーク」発足式
 松ヶ崎あんしんネットワーク協力団体が一堂に会しての発足式を11月25日実施した。活動の周知効果や多くの団体の協力で予以上の参加があり、地域全体の取組としての出発となった。

2 取組の成果・展開等
 学校・PTAから始まった活動も今では多くの地域団体が協力するまでに育ってきている。安心・安全な町づくりの意識も高まっているように思う。今後は、「できる時に、出来る場所」を活動の合言葉として、継続することが最大の課題である。



見守り活動は毎日だが、毎週1回の統一行動日

松ヶ崎 あんしんネットワーク
 通信 (地域の子は、地域で守ろう)
 学校安全会議や「子ども安全」の取組について発信しています。http://www.edu.city.kyoto.jp/matsugasaki/

平成19年7月12日 第17号
 京都市立松ヶ崎小学校
 松ヶ崎小学校PTA

7月5日、5年生が「防犯教室」を行いました。
 7月5日に防犯教室を行いました。警察の方も来られて、防犯(万引き)について学習しました。しつけや行動(犯罪になること)について、万引きが深いの木を犯すことを知りました。まだ「万引きをしよう」と、話されたとき、どのように言えばよいのか、ローレール一本を突いて学習しました。

5年2組の防犯教室の様子
 児童の感想文より『今日、防犯教室がありました。大角先生と警察の人が万引きする演習をしてくれ、とてもわかりやすかったです。その後、中井君が先生に、「万引き行こうな。」と誘われたときの返す言葉がいいなと思いました。やっぱり、いけないことはいけません。今日はすこしい事を教えてもらってよかったです。』

夏休みまで1週間ほどにのびてきました。次回7月18日です。
見守り隊統一行動日は、毎週水曜日です。
見守り活動の基本は、毎日、できる時間帯に、自宅周辺(出来る場所)で。

7月4日、PTA運営委員会が開かれ、『あんしんネットワーク』について今後どのように進めるか、話し合われました。

7月4日のPTA運営委員会で、見守り隊の今後の取組について話し合われました。周知の小学校の取組情報によると、下校時にも見守りをされているとのこと、本校も一度やってみよう！ということになりました。つきましては、7月10日発行のPTAだよりに、7月13日の金曜日、午後1時30分頃から、お子連れがこれらまでの開催されます。もし、時間がありましたら、できる場所で、子どもたちの下校を見守っていただければ幸いです。

雨の日も、地域のみなさんが、保護者のみなさんが、見守ってください。本場にありがとうございます。

PTAが、『あんしんネットワーク』のロゴマークが入ったこんなエコバッグを作りました。好評でみんなが使っています。周知の小学校の取組情報



松ヶ崎
あんしんネットワーク
通信 (地域の子は、地域で守ろう)
学校安全会議や「子ども安全」の取組について発信しています。http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/matsugasaki/

平成19年10月2日 第18号 京都府立松ヶ崎小学校 松ヶ崎小学校PTA

昨年からはじめた見守り活動の見直しが始まっています。
見守り活動の一層の充実のため、下校時の見守り活動は、また「ブロック」ごとに見守る場所を考え、見守りてもらうための「ブロック」を構成。また「地域ブロック見守り活動」に向け、新体制づくりを進めています。



PTA運営委員会の話し合いの様子

運動会後の説明会の様子

PTA地域委員会の話し合い

昨年1月の学校安全会議の話し合いから、「効果的な対策は、人の目による子どもの見守りであり、具体的な取組の第一歩をPTA・保護者と学校が担っていくことで、見守り活動が実現する」との思いからスタートした見守り活動も、この1年間取り組んできたことで、見守り活動が実現する。PTA・保護者と学校が担っていくことで、見守り活動が実現する。PTA・保護者と学校が担っていくことで、見守り活動が実現する。

朝の一斉見守り活動は、毎週水曜日です。
下校時の一斉見守り活動は、毎週水曜日です。

見守り活動の基本は、毎日、できる時間帯に、自宅周辺(出来る範囲)で。



見守り活動の様子

松ヶ崎
あんしんネットワーク
通信 (地域の子は、地域で守ろう)
学校安全会議や「子ども安全」の取組について発信しています。http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/matsugasaki/

平成19年11月13日 第19号 京都府立松ヶ崎小学校 松ヶ崎小学校PTA

松ヶ崎小学校の「子ども安全の取組」アイディア集「松ヶ崎の子どもは、松ヶ崎でまもる」

松ヶ崎ネットワーク通信	活動のシンボル・マーク	見守りプレート作成	地域の協力
学校安全会議	安全マップの作成	オリジナル・エコバック	PTAだより特集号
見守りの様子	ネットワーク発足総会	学校運営協議会・子ども安全	犬の散歩でも協力
松ヶ崎子ども110番	学校評価の活用	放課後見守り活動	地域団体の協力
地域ブロック会議	CAPプログラム	協力の家ステッカー	松ヶ崎安全宣言

※ 松ヶ崎子ども110番は、11月7日に京都市スクールガード養成講座(北文化会館)で実践発表した際に配付したものです。

※ この資料は、本校が11月7日に京都市スクールガード養成講座(北文化会館)で実践発表した際に配付したものです。

松ヶ崎
あんしんネットワーク
通信 (松ヶ崎の子は、松ヶ崎で守ろう)
学校安全会議や「子ども安全」の取組について発信しています。http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/matsugasaki/

平成19年12月21日 第20号 京都府立松ヶ崎小学校 松ヶ崎小学校PTA

1月から、「地域ブロック見守り活動」がスタートします!
この1年間、地域の皆様、保護者の皆様、見守り活動がはじまりました。来年から、保護者の見守り活動が新体制でスタートします。地域の皆様も今まで以上に活動をお願いします。



水曜日の登校時の見守り活動の様子



水曜日の下校時の見守り活動の様子

松ヶ崎の子どもは、松ヶ崎のみならず、そして、あんしん・あんしん松ヶ崎にしようとしてスタートした「あんしんネットワーク」がさらに一歩進みました。保護者の皆様、当番表を確認していただき、見守りグッズ(旗、帽子、ジャンパー、「ワンちゃんマーク」のホームタグやエコバック)を活用して参加ください。

冬休み中も、子どもを「見守る目」をお願いします!
来年初の見守り活動は、1月9日(水)です。
見守り活動の基本は、毎日、できる時間帯に、できる範囲で。



11月21日、学校運営協議会の安全部会が開かれ、『地域ブロック見守り活動』について話し合われました。地域も協力していただきます。



12月3日、下町警察署の方から、見守りでの注意点をいただいた旗の使い方を指導していただきました。



12月4日、松ヶ崎防犯推進委員会と北山交番との連絡会が行われ、松ヶ崎地域の安全について話し合われました。

上記の学校運営協議会子ども安全部会、1月からスタートする『地域見守り活動』について、PTAより説明があり、今後の取組について話し合いました。各ブロック会議で出た問題点や要望も伝えられました。早速委員の方が下町警察署で横断旗50本をもちこたえました。また、学校予算で旗のジャンパーを購入したり、警察より旗の帽子とジャンパーの寄贈を受けたりし、見守りグッズも充実しました。

第2章

スクールガード 養成講習会の開催

第1回 京都市スクールガード養成講習会 「地域の子どもは 地域で守り育む」

日 時 平成19年6月20日（水） 午後2時～3時30分

会 場 京都市総合教育センター 4階「永松記念ホール」
[京都市下京区河原町仏光寺西入ル]

主 催 京都市教育委員会

共 催 京都市子ども安全会議

※「京都市子ども安全会議」とは

人づくり21世紀委員会、京都市PTA連絡協議会、京都市地域生徒指導連合会、京都「おやじの会」連絡会、京都市学校保健会、京都市立学校長・園長会、京都市教育委員会の代表で構成し、子どもの安全に関する重要または緊急の課題についての方策についての協議・意見交換を行なう。平成16年4月設置

対 象 者 見守り活動等を行っているスクールガードの代表及び教職員

参加人数 330名

内 容 講演

「子どもを危険から守るには」

講師

子どもの危険回避研究所 所長 横矢 真理

※横矢 真理 氏のプロフィール

日本大学芸術学部放送学科卒。平成2年より、主婦の立場を生かした考現学的商品研究とともに、子どもを取り巻く危険や環境に関する研究に携わる。平成11年より、「親子で生きる力を養う」ためのサイト「子どもの危険回避研究所」を主宰・運営し、子どもに関わる事故・犯罪・暴力・健康・環境などの情報を提供し、生活安全教育の普及をライフワークとしている。

日本犯罪社会学会・日本犯罪心理学会・日本被害者学会・警察政策学会『市民生活と地域の安全創造研究会』研究員

「子どもの危険回避研究所」のウェブサイトより

講演

みなさんこんにちは、子どもの危険回避研究所の横矢です。

4年前に中学生用の防犯テキストを全国で初めて出版したとき、それを見た京都府警の課長からご連絡いただいた京都に来たことが、私と京都との関わりのはじめです。

地域安全マップづくりなど安全安心まちづくり京都の取組に関わっており、今回、また、京都に呼んでいただきうれしく思っています。

今日はそれぞれの地域に戻られて具体的に役立つ事や取組に活かされるようなお話をしたいと思います。



パンフレットの表紙のイラストにあるように、子どもの危険と言っても様々な分野の危険がありますが、時期によってどこかに意識が集中しがちです。例えば防犯、広島や奈良の事件があった頃から防犯に対する意識は強くなりましたが、子どもたちを襲う危険は事故や防災などもあることを忘れてはいけません。全体をバランス良く見守ることが大切です。

私たちがこの図をつくったのは9年前ですが、全国の保護者約800人にアンケートをとり、実際どんな危険や不安があるのか調査をしました。その結果がこの図なのです。

「子どもを留守番させる時にどうしたら安全に過ごせますか」という質問を受けることが多いのですが、子どもが留守番中に地震が起きたら等なにか起きるか

いうことをまず考えてみてください。家具の転倒防止つっぱり棒をつけたり、チェーンをつけたりという事をされている方は手を挙げてください。意外と少ないですね。関西では阪神淡路大震災があったので、もう大地震はないだろうと思っているとよく言われます。しかし、残念ながら日本中いつでもどこにのかわかりません。地震の対策は大事な事です。まずここから対策を考えると良いでしょう。

アンケートで多かったのが、家の中の事故でした。不安を感じる場所では外のほうが多かったのですが、現実には事故が起きているのは家の中が1番多いのです。ガラスに突っ込んだり、階段を落ちたり、扉に指をつめたり、打ち所が悪いと大変な怪我をするという事があります。ガラスの飛散防止フィルムというのを、付けていただくと地震対策にもなります。改めて地震対策について考えてみてください。

他に家庭での留守番中にどんな事が起きると思いますか。アンケートを取ると、子どもが留守番中に、居留守を使っている人が約半数いました。この場合、実は空き巣に入られる可能性が出てきます。空き巣はチャイムを鳴らしてみても、いないと思ったら鍵を開けて入ることが多いのです。その際に小さい子どもが一人でいたらどうなるか。「殺される事もあります」と、ある警察関係の方に言われて、6年前に私はすごくショックを受けました。それほど留守番は危険なことなのです。

そういうことも考えると、子どもを守るためには、空き巣に入りにくい家にすることも大切です。また、子どもにも防犯を教える必要がありますが、子どもに留守番ができるか判断する場合に「鍵が使えるか」という点が大きなポイントだと思います。鍵を開ける時に、後ろから誰かが来て、押し込まれて家に監禁される事も結構あるので、鍵がちゃんと使えるようになることは、大きな判断材料になると考えます。それがで



きないうちは、留守番させない方が良いでしょう。

また、鍵をぶら下げて歩いたりさせるのは非常に危険です。犯罪を考えている人は、下見をしますので、目を付けられないようにすることが大事です。

そして家の前に来る途中に、後ろを注意する事を教えています。さらに留守だと思わせないように、チャイムを鳴らして家に入り、「ただいま」と言いながら入って鍵を閉めるという一連の行動を教え、習慣づけるようしてほしいと思います。

玄関のドアを二重鍵にしてらっしゃる方は手を挙げてください。とても多いですね。では裏側のベランダ側、サッシに補助錠・補助鍵などをつけておられる方は手を挙げてください。半分ぐらいに減りましたね。裏側から窓を破られるなどがけっこう多いので、ぜひ補助錠もつけてください。ガラスに防犯フィルムを貼っておられる方は？少ないですがおられますね。ガラスが割れにくくなり、効果があります。事故や災害時にも役立つわけです。

環境も大きなポイントになります。

個人的な話ですが、17年前になります。最初に研究したのが抗菌防臭靴下でした。私は男の子二人の親で、当時は専業主婦でした。男の子が3人いる友達と一緒に、抗菌防臭靴下を、子ども向けに開発をしようと思始めました。調べてみると、抗菌剤という薬剤が使われ、繊維に抗菌剤が練りこまれたものや、抗菌剤につけて効果を持たせたものがありました。調べてみると、洗たくをしているうちに、効果が弱くなるものがあります。これは、言いかえれば抗菌剤が溶けて出てくる可能性があるわけです。薬剤についてメーカーに問い合わせると、どこの企業も教えてくれません。色々な資料を調べてみると、ひとつの薬剤がわかりました。それはアメリカではレモンやオレンジにかける農薬として使用が禁止された物で、日本に入って、抗菌防臭のある商品に使われていたということがわかりました。それが日本で使えない薬となった場合に、アジアに売られていることもわかりました。ショックでしたが、見えない裏側では何が起きているかを考えなければならぬことに気づきました。ここで得た教訓は、「知ら

ないで使わされるのは嫌だ。知っていて選べる親になりたい！」ということでした。

子どもを取り巻く危険には、本当にいろんな物があります。シュレッダーで幼児が指を欠損する事故もニュースになりましたが、身近にある玄関のドアなどでも400キロぐらいの重さがかかり、指が切断されるという事があります。同じような危険な小さな隙間、子どもが指を突っ込みやすい思いがけない穴や尖った所など探すとたくさん出てきます。視野を広めて見ていただくと、子どもの危険を考えるポイントが見つかります。何人かで話し合うことも重要だと思っています。

大人が子どもに対してできることは大きく分けると2つです。1つは子どもの危険回避能力を高めるサポートです。子どもの危険回避能力は、生まれつきのものがありますが、その能力を高めるサポートができるのが大人です。もう1つが犯罪や事故に遭いにくい環境づくりです。先ほど留守番、防犯の話をしました。防犯力を高める事と、鍵の開け方を教えることは、子どもの能力を高める事と、犯罪や事故に遭いにくくします。

私がアンケートを行った1999年6月。私は専業主婦でありながら、子どもの危険から身を守るための研究を続けていました。ホームページを開設し、そのディレクターをやりました。そこで多くの保護者とメールやチャットで話をしました。そこで感じたのが、漠然とした不安を持っている人が多いということでした。何が不安か説明できないが、いざという時に守れない気がするっていうのです。もうひとつは情報が足りないという意見が多かったのも印象的でした。

そういう保護者に向けて、子どもを守るための良い情報を集めたリンク集を作成し、子どもの危険回避研究所となづけました。最初は、架空の研究所で、ホームページのタイトルだったのです。子どもの危険回避とは、表紙の下の方に書いてある通り、「危険を事前に予測して未然に防ぐこと。そして、もし防ぎきれなかった場合は、被害を最低限におさえることです。それには、最悪を想定した準備と、訓練が重要です。」これが大切なことです。

危険を未然に防ぐと言っても、何でもかんでも危険



を遠ざけようとか、防ごうというではありません。よく勘違いされて、タイトルだけきいて、「横矢さん、危険は回避させちゃいけないよ」と以前はよく言われました。それは、「鉛筆はナイフで削る時に、指を怪我しながら乗り越えていくものだから、危険は回避させてはいけない。」という意見です。それはみんなが一瞬そうだと思う言い方ですが、だからと言って何もなくていいわけではなくて、いろんな方向から対策を考えてほしいというのが私たちの考え方です。

危険にはいろいろなものがあり、レベルもあります。子どもが必要以上に傷つけない危険回避が大切です。命に関わるような大きな危険からは防ぐべきです。それには、自分で危険を事前に見つけて、それをレベル分けして対処ができるような人間になってほしいと活動しています。また、もし防ぎきれなかった場合は、被害を最低限に抑える事を必ず入れておくべきです。

犯罪は、被害にあったのは自分が悪かったのだと思ってしまうがちです。痴漢に遭った時に、私に隙があったからと思ってしまう。また、そう保護者に言われてしまうこともあります。でも犯罪にあうのは、犯罪者が悪かったのです。傷つけられても、すぐに治療する事ができれば、傷は小さくする事ができます。心の傷も同じように対処すれば、小さくする事ができます。何でも未然に防ぐだけではなくて、レベルを下げ、傷を弱めるということも考えてください。

想像力や判断力や瞬発力・コミュニケーション能力や想像力が、最近の子どもに欠けていると言われてます。想像力に欠けている子どもは被害者になりやすいのですが、同様に加害者にもなりやすいと言われて

います。先のことを考えられないと、いじめっ子に仕返しをしようと頭を殴ってしまい、その結果相手は亡くなってしまうかもしれません。被害者が加害者になってしまうわけです。これを防ぐためには、想像力をつけていくことは、とても大事な事となります。

コミュニケーション能力ですが、例えば大地震起きたときに「どこに避難したらいいか」ということを、大人と話ができる子どもと、できない子どもでは助かる確率が違ってくと思います。

子どもの危険回避能力をアップするには、地域安全マップ作りがとても効果的です。地域安全マップは、子どもがメインになって町を歩いて、地域の危険な場所を見つけて歩くという方法です。想像力やコミュニケーション能力を高めながら、地域の環境を改善する効果もあります。やった事のある方手を挙げてください。4割、3割位でしょうか。では、ビデオをご覧ください。広島県の大学生が作ったビデオです。京都も大学生がよくサポートしてくれますが、広島県は地域安全マップ作り専用のチームが大学生の間にできました。大学に小学校6年生を呼び、学校で地域安全マップの指導者になる勉強もさせています。学食で一緒にご飯を食べたりしながら大学生と交流し、マップ作りのリーダーを育てる活動まで取り組んでいるのです。ビデオは地域安全マップ作りを学校で作る例ですが、他にもいろんな地域の公民館や青少年館などが土曜日、日曜日の活動として取り組まれていますので、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

<ビデオ上映>

子どもたちが楽しそうにやっていたのがわかってい

考えてみましょう「危険な場所とは？」

犯罪に遭う機会を減らすために、犯罪の起こりやすい場所がわかるようになります。

シーン 1 道端で

Q このよう年輩では、どういふ犯罪が起きると思われますか？ それを防止するには、どうしたらよいでしょうか？

★ 向を歩いたとき、車の道の死角と無注意をすばやくチェックするようになりましょう。ヘンだと感じたら、その場を通るのをやめて、大人がいる方向に歩いて逃げましょう。



シーン 3 エレベーターで

Q どこに立つのがいちばん安全でしょうか？

★ ハード面では、緊急ボタンを押したり、ドアを開けるとより安全になります。



シーン 2 公園で

Q どちらの公園の方が危険が低いと思えますか？

★ より安全な公園の条件を知って、遊ぶ場所を選びましょう。遊んでいるうちにひとりになってしまうないように見をつけることが大切です。



防犯の基礎をおさえておきましょう

●「イカのおすし」をおぼえましょう
(乗客が押された場合です)

- ① 行かない (知らない人はついていけない)
- ② 乗らない (車に乗らない)
- ③ 大声をあげる (逃げた時に大声をあげる)
- ④ すく逃げる
- ⑤ 知らせる (乗客や人の情報を知り合える)

●さらに安全度アップには？

- ひとりで歩かない、遅れない
- どこで誰と歩いたら、かからず歩む人に誘ってかける
- 人目の多い明るい道を選んで歩く
- 建物の裏側に気をつける(とくに後ろは注意要)
- 人や車と、両手を触れた以上の距離をとる

ヘンなことがあったら、すぐ逃げて、大人に報告することが大切だと何度もおぼえましょう。

ただけたのではないかと思います。先日熊本県のイベントで子どもたちによる発表会がありました。モデル校が2校、市部学校の子どもと、郊外型学校の子どもと二つのタイプで実施したのですが、発表会で両方も同じ事を言っていたのが心に残っています。それは「地域の方たちと一緒に歩く機会がもてて面白かった。お話ができて楽しかった。」ということでした。両方のチームとも、空き地の草が伸び放題になったところが気になる、ちょっと怖いなどと子どもが言ったら、次にお会いする時まで、皆さんで草を刈ってくれていたということでした。自分たちが言ったことを聞いてくれて街の安全度も上がって、すごく嬉しかったという話をしていました。そういう形で地域の方々と一緒にマップ作りができれば、すごくいいことだなと思っています。

学校で実施するのは大掛かりになるのでなかなか難しいので、まずは家庭で作ってください。お友達を二人ぐらい誘って、あるいは家族二組三組と一緒に町を歩きながら、危ないところあるかなって一緒にワクワクするような冒険的な感じでやっていただけるといいと思います。ゴミ拾いも一緒にいかがでしょうか。ゴミが散らかっている所は管理が行き届いていなくて、犯罪を実行しやすい所です。そこを安全な場所にするために、きれいにしていこうとゴミ拾いをするのです。ただし、熱心に活動すると交通安全に気をつけなくなるのでそこを注意するのは大人の役割です。

道路の絵ですが、「どこに気をつけたらいいと思いますか?」「どこが危ないと思いますか?」

男性「歩道のラインが京都なんかはあるんですけど、これを見ていると片側路上駐車で、こっちはバイクが走ってますね。危険な道路があると今拝見しています。」

歩道と車道が分かれていない、こういう道も多くあります。しかし歩道と車道が分かれていれば、事故にも犯罪にも遭い難くなります。道を選ぶ時には、できれば歩道と車道がある道を、ガードレールがある道を選べるようにお話をするようにしています。ほかにこの道路いかがでしょうか。

女性「バイクが通っているのが、なんかこれ、ぶつかりそうな気がします。」

歩道と車道が分かれていないし、道が狭いし、おまけに車が停まっているので交通事故に遭いやすいですね。バイクだけではなくて自転車にぶつかる事故も想像以上にダメージが大きくなることがあるので、注意してください。

男性「塀がありますね。見通しがきかないので、閉鎖的です。人の犯罪がちょっと危ないですね。」

長く塀が続いている道で、木がうっそうとしており、まわりから隔絶された場所になっています。子どもが助けてと言っても誰も出てきてくれない場所です。高い塀ではなく、フェンスのほうがまわりからも目があり、犯罪もやりにくいのです。木もきれいに伐採されているほうが、安全度が高くなります。塀は、一旦中に入られると泥棒が仕事をやりやすい場になってしまいます。そういう危険性も出てきます。ほかにいかがでしょうか。

女性「子どもの横断歩道がない」

道横断歩道がないので、道のどこを歩いたらいいのかわかりにくいですね。

女性「私はこの車が駐車してあるので、連れ込みが気になりました。」

車の連れ込みは、奈良の事件の後から、かなり子どもたちも認識するようになりました。停まっている車には、急にドアが開いて連れ込まれないように気をつけましょう。離れて歩くように言ってください。また、この道は曲がっているの、見通しが悪く、あっちから来る物が見えません。バイクがひったくりをするかもしれません。人通りがないので人の目による見守りがありません。また、子どもたちがよく気がつくのが側溝です。この溝に足をつっこんで怪我が多いのです。それからよく気がつく子は、街灯が1個しかないからこの道は夜、暗くて危ないのではないかという意見を出します。小さい子や小学生の子どもと一緒にやる時は、みんなが答えたので、ハイハイって手を挙げてくれます。順番に当てながら、そうだねそうだねっていうふうに、みんなで話し合ひましょう。そういうチャンスを作るのに、この絵はとても有効だと考えます。

先ほどの犯罪が起きやすい場所を教える時にも、こ



の図は使えますが、その時には、小さい子にもわかりやすい方法があります。「もしこの道でかくれんぼをするとしたら、どこに隠れる？」というふうに尋ねると、入りやすく、見え難い場所が全部出てきます。

車と車の間、塀の向こう、木がいっぱいあると隠れやすい、カーブだと見え難いから隠れられるなどいっぱい出てきます。そういう隠れやすい場所は悪い事をしやすい場所で、悪い人が隠れやすい場所だから、ポーっとして道を歩かず、道を曲がった時は、パッと先を見てごらん、先を見てそういう隠れやすい場所がないか探してごらん、見つけたら両手を広げたくらい離れて歩こうという話をします。

急に手を引っ張られたりしないように、意識をして歩いくということが大事です。できるだけ安全な道を選ぶ力をつけることがとても大切なことですが、どうしても危ない道を歩かないといけない子は、この道は隠れやすい場所が多い危ない道だから気をつけて歩こう、というふうに認識してくれば違ってきます。

放っておくと、子どもをまわりあまり注意を払わないものです。前方はあまり見ていないし、後ろで物音がしても振り向かないことが多い。ですから意識をして歩くということを教えます。ただ交通事故に遭わないようにしっかりと指導する必要があります。それから、実際に道でかくれんぼをしてはいけないと話しておいてくださいね。

シーン2の公園ですが、これは隠れる場所が多いということで、Aの公園の方が安全度は高いのです。ゴミが散らかっている公園、落書きが多い公園、そういう公園は危険度が高くなるので注意します。町歩きをすると、公園にもそういう場所があることがわかります。トイレの影にタバコの吸殻がいっぱいあるとか、そういうことに気づくと、ここは悪い事がしやすいね、じゃあいま片付けようとなるのです。

子どもたちは素直なので、すぐに片付けたくなり、それができれば自分が役に立ったと喜びます。それが町歩きするいいところです。

シーン3のエレベーターは、これはどこに立つのが一番いいかという、Cの位置に立つのが正解です。先ほど両手を開いたくらい離れてねといいましたが、離れられないのがエレベーターで、密室になってしまいます。また、学者の方と相談しましても、エレベーターに1人で乗る時、どうすれば安全か、しょっちゅう聞かれますが、正解は「1人で乗せるな」になります。そうはいっても乗る事もあるので、何ができるかという、Cの位置に立って逃げるチャンスを増やせるように、すぐにボタンが押せる場所に、それから後ろから急に襲われることが多いので、背中を壁に付けて立つというように話をします。

Aの場所がなぜ悪いかというと、ここは90度の角度

しかない場所で、押さえ込まれると一番逃げにくい場所です。痴漢が電車で起きやすいのも同じような場所です。ドアに入ってすぐの椅子のところにつ立ちたくなりますが、ここも90度なので押し付けられて痴漢にあいやすいのですね。

人がいても、すみっことはそういう危険性があります。ドアのまん前ですが、あらゆるドアは過信してはいけないと教えます。ドアの事故は多いです。電車でさえ、時々走っている途中に開いてしまうようなことがありますから、ドアのまん前には絶対立たせないという習慣を身に付けさせてください。

あと、近寄せないっていうのも大事です。ドアに指を挟まれるのは、真ん中に挟まれるだけじゃなくて、戸袋の方に引き込まれる、あと洋服も引き込まれることがあります。洋服に紐がついていたりすると、引き込まれたりする事がありますので、そういう注意も一緒にすることが大事です。ドアに注意って、かわいいシールがエレベーターに貼ってあったりしますが、大人の目の高さにくまちゃんの絵が貼ってあったりします。子どもは下から90センチ位のところに貼ってほしい。そうすれば小さい子も見えます。

危ないと思う場所、危険な場所に絵を描いて貼るとか、そういうような事をしながら、身近なところで経験をさせながら、外でも対応できるようにしていただきたいと思います。

<「イカのおすし」>

「いカのおすし」は、警視庁が考えた教え方です。「知らない人についていかない」「車に乗らない」「大声を上げる」「すぐ逃げる」「知らせる」

知らない人にとというのがポイントで、ちょっと前にしゃべった事があるだけで知っている人だと子どもは認識します。お友達のお父さんだったりすると知っている人になってしまう。前もって約束をしていない人について行ってはだめだよというふうに教えてください。

大声を上げるのですが、警察では「助けて！」と言うように教えています。これもいろんな所で教えていると、でもいざという時に大声なんか出ませんよと言う方がいますが、確かに出にくいのは本当ですが、いざという時に出不いからやらないのと、いざという時に出しにくいからできるだけ出るように稽古するのでは、子どもの育ち方が全然違うと思っています。

毎日大きな声で挨拶して、大声を出せるようにしようという励まし方をしてもらいたいと思います。ひとつコツがあって、目で睨みつけられると体が硬くなって声が出にくくなるが、視線を少し相手の目から肩ぐらいにはずすと声帯が開くので声が出しやすいのです。高学年には教えると良いと思います。このように防犯には、これさえやれば絶対大丈夫という特効薬みたい

なものはないですけれども、小さな工夫を積み上げて安全度を上げていき、一緒にがんばり、考えるという形で、包容力をもって子どもたちを見守っていただくことが一番だと思っています。

防犯YES/NOクイズ

- Q1. 子どもの連れ去り事件・連れ去り未遂事件の90%以上が一人にいる時に起きている。
YES・NO
- Q2. 路上駐車が多い道は、人目が多いので、安全度が高い。
YES・NO
- Q3. ひったくりは、ほとんどの場合、うしろから来る。
YES・NO
- Q4. 自転車に乗っているときは、チカンに合う心配はない。
YES・NO
- Q5. 夜道を歩くときは、どこを歩いているか携帯電話で家族に話しながら歩くと良い。
YES・NO
- Q6. 大通りを一本入ったところにある道は、犯罪が起きやすい。
YES・NO
- Q7. 防犯ブザーは、すぐ鳴らせるように、ひもで首からかけておく方が良い。
YES・NO
- Q8. 公園のトイレは、入口近くにある方が、奥にあるより安全度が高い。
YES・NO
- Q9. エレベーターで怖い思いをしたら、できるだけ早く降りて上に逃げる。
YES・NO
- Q10. 目的地までいつも車で送迎しているので、防犯は完璧だ。
YES・NO

防犯 YES/NO クイズをご覧ください。盲点になるところをまとめたクイズです。

1番、子どもの連れ去り事件・連れ去り未遂自然の90%以上が1人にいる時に起きている。これはNOですね。90%というのは多すぎです。70%ぐらいではないかと思います。しかし1人にいる時が圧倒的に狙われているということは、やっぱり再確認しておかないといけません。なぜ1人だと狙われるかという、犯罪者は基本的に捕まりたくないから、見られたくない、そこで相手が1人の時が好都合ということです。ここで気をつけなくてはいけないのは「1人になってはだめ」ばかり言っていると、じゃあ3人だったらいいのかというふうに思ってしまう子どもがいるということです。渋谷で小学校6年生の女の子が、4人拉致監禁された事件がありました。1人じゃ行かないようなところも、3・4人ならいいか、大丈夫だねというふうになってしまうことがあります。油断してはダメだということです。

私はよく高学年に「夜に慣れるな、大人をなめるな」と言っています。犯罪者は本当にうまく考えてくるので、最初は3人で呼ばれても、ここから1人ずつ写真撮るから、こっちに1人ずつ順番に来てねって言われたら、簡単に3人ばらばらにされちゃうのです。そういうこと



を注意しておく必要があります。

2番、路上駐車が多い道は、人目が多いので、安全度が高い。ところが子どもは車がいっぱいあれば人が多いからきっと安心だろうって思うてしまうことがあります。路上駐車を許している、通報されない道は関心度が低い、まわりの人の関心が低い所だから、危ないと教えてください。

3番、ひったくりはほとんどの場合、うしろから来る。YESです。これは見られたくないからです。最近は自転車の性能がよく、近くまで来ても音がしないのです。以前は自転車やバイクが来ていたらすぐ気をつけてと言っていたのですが、最近は音がしないのでわかりません。対応策は、できるだけ安全な道を選んで歩く、また危ない道を歩かなければいけない時は、最初からかばんを車道と反対側に持つことです。海外では前に抱えて持つことが1番奪われない方法と言われています。

自転車に乗ってる方は手を挙げてください。多いですよね。その前かごにひったくり防止カバーをつけてらっしゃる方を挙げてください。多いですね、ありがとうございます。ひったくり防止カバーをつけていると99%ひったくりに遭わなくなるといわれています。

4番、自転車に乗っている時は、チカンに合う心配はない。YESだと思う方はパー、NOだと思う方はグーを挙げてください。皆さんグーですね。これが、子どもに聞くと中学生ぐらいでは半々になります。チカンに遭わないと思っている子が半分もいるのです。自転車に乗っているとスピードがあるから大丈夫だと思っていますから、自転車に乗っている中学生はとても心配です。クラブや塾で中学生ぐらいになると遅くなります。自転車に乗っていると、両手が塞がっているので、胸を触られたとかそういうことも多いです。ひどい場合は車ごとぶつけて、自転車を倒して、病院に連れて行ってあげるからと連れ去ったり、お家に連れて行ってあげるからと連れ去ったりという例もあります。自転車に乗っていても、歩いていても注意しなくちゃいけないよと教えてください。

5番、夜道を歩くときは、どこを歩いているか。携帯電話で家族に話しながら歩くと良い。「ねえ今、コンビニのところ」などしゃべりながら歩くという教え方をしている家庭もおありかもしれません。これが良いと思う方はパーを挙げてください。良くないと思う方はグーを挙げてください。ここは皆さんグーでしたね。これはいつも半々になりますが、まだわからない人が多いようです。携帯電話を使っていると、まわりの気配に気付きにくくなりますから、携帯は歩きながら使ってはけません。使う場合は、人のいる事故にあいにくい場所で連絡するように指導してください。携帯電話の長所、短所については、よく話し合ってくださいね。

6番、大通りを一本入ったところにある道は、犯罪が

起きやすい。YESです。逃げやすいからです。人に紛れて逃げやすい、1本入った道は暗くて人通りが少ないことが多いですから、犯罪が多くなります。同じように警察の管轄が違うところ、境目ですね、ここでは犯罪が起こりやすくなります。反対側に逃げれば追いつきにくい。3つが重なっている所は、特に危なくなります。どこかに逃げたかわからないだろうと思うからです。

7番、防犯ブザーはすぐ鳴らせるように、ひもで首からかけておくと良い。YESだと思ふかたはパー。NOだと思ふ方はグーを挙げてください。これは分かれましたね。これはNOのグーが正解です。防犯協会も、ひもで首からだけはかけないでと言っています。どうしてかという、子どもにひもは危険度が高いからです。活発に動きますから、どこかにひっかかって窒息する可能性が出てきます。簡単に取れるように細工されているといわれるかもしれませんが、細工されていない物もあります。

8番、公園のトイレは、入口近くにある方が、奥にあるより安全度が高い。これはYESです。出入口のあたりは人から見られる場所になります。それで安全度が高いのです。公園の奥の方にトイレがあると、トイレに行こうと思っただけだよと不振な人がウロウロしても、理由付けができるのです。

学校などでも同じです。不審者進入の事例は、「受付がどこかわからなかった」とか「トイレを借りようと思った」という言い訳ができると思ったら入ってくるといわれています。言い訳できないようにしておくというのが大事です。出入口を1か所にして、ここは子どもの施設ですので、それ以外の方はご遠慮くださいとはっきり書いてください。

9番、エレベーターで怖い思いをしたら、できるだけ早く降りて上に逃げる。NOです。上に行くと屋上に追い詰められることがあるからです。また、人に会いにくくなります。

10番、目的地までいつも車で送迎しているので、防犯は完璧だ。YESだと思ふ方はパー。NOだと思ふ方はグーを挙げてください。防犯は完璧ということはありえません。残念ながら私が今お話してきた話は、基本的に捕まりたくない人の話をしましたが、最近捕まりたかったとか、死刑になりたかったと言って犯罪を犯すような人もいます。完璧というのはありえないのです。保護者の方は「どうしていいかわからない」と言われます。その場合、何が心配か書くように書いてみてください。私たちは「不安の棚卸」と言っていますが、不安な事を書くとも頭が整理できます。その横に自分で何ができるか書いて、自分ができなくても誰かに何か頼める事を書いてみて、というふうにみんなで話し合うと、問題が具体的になり、1つでも何か実際に対策が取れば自信がついて不安は小さくなって



きます。目的地まで車で送迎は悪くないですが、同乗している時はまわりを見ないものです。どこが危険かなどもわかりません。事件の例を調べていても、その日だけお祖母ちゃんが迎えに行けなかったとか、この日だけ友達が早退したとか、そういう時に犯罪に遭っていることが多くなっています。普段からできれば歩いて、まわりを一緒に見ながらと話し合うことを大事にしてほしいと思います。

黄色いパンフレットの裏側も見てください。「10分ください！運動」って言っているのですが、例えば1年に1度だけ防犯訓練をやるより、何かあった時、何かあって集まる集会のある時に、子どもの危険について話し合おうという時間を10分でもつくってもらえば、何度も思い出す事ができます。皆が考える機会を作っていただくといいと思います。今日はパンフレットとかいろいろお持ち帰りいただきますので、その10分に、皆様が先生になって、また違う人に広めてください。そうすると、子どもたちの安全度が高くなっていきます。皆様にはこれからもご活躍いただきたいと思っています。私たちの研究所はインターネット上にありますので、何かあったら覗いてみてください。

京都の子どもたちが、これからも大きな事故や事件に遭わないで、すくすく大きくなれることをお祈りして、また皆様のご活躍がこれからもますます強まることをお祈りして、私のお話は終わりにさせていただきます。ありがとうございました。

第2回 京都市スクールガード養成講習会

無理なく「見守り活動」を継続させるためのヒントがここにある!!

日 時 平成19年10月26日(金) 午後3時から午後5時まで

会 場 ルビノ京都堀川 (京都市上京区東堀川通下長者町下ル)

主 催 京都市教育委員会

共 催 京都市子ども安全会議

対 象 者 見守り活動等を行っているスクールガードの代表及び教職員

参加人数 230名

内 容 実践発表

正親小学校 学校安全主任

田中 秀樹

パネルディスカッション

テーマ「地域安全マップの充実と子ども安全」

・コーディネーター: 同志社大学大学院 教授

谷口 知弘

・パネリスト: (学校) 山ノ内小学校 教務主任

久保 賢洋

(地域) 上京平安レディース

麻田恵美子

(PTA) 洛央小学校 PTA

駿河 悦子

(関係機関) 右京警察署 生活安全係長

杉野 孔明

実践発表

正親小学校 学校安全主任 田中 秀樹

正親小学校で学校安全主任をしております田中です。今日は、正親小学校で昨年度、今年度取り組んできた学校安全についての学校での取組、それから地域の皆さんのご協力を得て、子どもたちが安全な学校生活あるいは地域での安全な生活が送れるように取り組んできたことの報告をさせていただきたいと思います。

地域ぐるみの学校安全の取り組みというタイトルをつけさせていただきました。正親小学校は明治2年8月に上京区の十番組小学校として開設されました。校区は、北は一条通りから南は下長者町通り、東は松屋町通りから西は千本通りまでです。昭和32年頃には千名あまりの児童が在籍していましたが、現在は147名という規模の小学校です。本校の特色としては、地域の方々の子どもの安全を守る活動という家族的な雰囲気の中で活発に行われており、学校・保護者・地域の連携はますます深められ、精神教育の発展に向けて一丸となって取り組んでいます。

本校では学校の教育目標を次のように定めております。「正親勇」の心を基盤にしながら、明るくたくましく伸びる正親の子、正直親切勇氣という心を根底にすえながら正親の子どもたちは心身ともに明るくたくましく大きく伸びていってほしいという願いを込めて、この目標を掲げています。そして活動場面での具体的な子どものイメージを思い浮かべながら、子どもの目指す像を「自ら学びあえる子」「互いに高めあえる子」「健康な子」としています。

これら学校教育目標、それから目指す子ども像を踏まえながら、さらに学校安全教育の面からは、子どもたち自ら危険に気付き、安全に行動する子どもというふうに考えています。そして、子どもたちの発達段階にあわせて、低学年では「自分自身の安全に気をつけて行動できるように」、本校では育成学級の子どもの中学年におり、育成学級と中学年では、「危険を感じ、安全な行動ができる」、そして高学年では「安全について注意し、周りの人に対しても喚起できる」というふうな発達段階に分けて目標を定めています。

私たちは自ら危険に気付き、安全に行動するというこの安全目標に近づくために、次のようなことを考えています。

学級での指導だけではなく、低学年、中学年、高学年の活動や縦割りの活動を効果的に取り入れることによって、集団の一員としての自覚が高まります。上級生を信頼する気持ちや、下級生をいたわり責任を持つ

て行動するが培われ、安全に対する意識が高まるのです。

2つ目として家庭や地域との連携を密にすることによって、個々の児童の課題について学校と家庭そして地域が協力して取り組むことにより、生きる力を向上させることができるのです。学校教育として私たちは年間計画による安全指導、学級活動あるいは朝の会や帰りの会などの毎日の指導、必要に応じた適宜の指導、安全ノートの活用、体育や理科など各教科領域での安全指導や安全学習、そして環境整備や安全管理に取り組んでいます。

学校教育の主な柱は、学級活動における安全指導と考えています。これは主に安全ノートを使って指導しています。毎月各学年共通のテーマを設け、学校の行き帰り、遊具の使い方、自転車の乗り方、地震のとき、校外の安全、避難訓練、道を渡るとき、自転車と自動車と人、校内の安全、交通安全の面あるいは校内での遊び、防犯の面、自然災害における安全指導を行っています。

さらに、上京警察署の協力を得て、防犯についての訓練の他、光化学スモッグ注意報・警報の発令時や地震発生時・火災発生時の避難訓練も行っています。

学校現場で大切なことの一つとして、ここに挙げました環境整備が挙げられると思います。本校では昨年度、廊下のセンターにこの写真では真ん中の白い丸が描いてありますが、センターに白いペンキを使って目印を、教職員が汗をいっぱいかきながら描きました。これは廊下の右と左を子どもたちが意識できるようにという狙いです。右側通行を意識してほしいと我々教職員は思っていますが、なかなか子どもたちは右を意識しませんし、廊下も走ります。そういう状態ですが、



とにかく環境整備をしていこうという思いからです。また「静かに廊下を歩きましょう」「右側を歩きましょう」などパネルを掲示します。さらに子どもたち自身の安全に対する意識を明確にするために「僕・私の安全宣言」ということで、ひとりひとりがカードに自分自身の目当てを記入して廊下に掲示しました。いくつか紹介しておきたいと思います。

交通安全の面ではある子どもは「わたしは信号が青になっても右左を確認します」と書いています。「自転車に乗る前には自転車をチェックします」「路側帯の中を歩きます」と書いている子どもがいます。校内の安全の面では、「急いでも廊下は右側を歩きます。「正しく遊具を使って遊びます」「雨の日は廊下を走りません」と書いている子どももいました。「廊下を雨の日は走りません」、よく考えると晴れた日はいいのか？という事もありましたが、子どもたち自身の意識はとにかく廊下は走らないで歩きましょうという、そういう目標を掲げているのだと思います。

防犯の面では「知らない人の車に乗りません」「学校の帰り道道草をしません」「知らない人と話すときは離れて話します」などというのがありました。

さらには、学校内の遊具で落下事故の多いジャングルジム・総合遊具さらに鉄棒の下には安全マットを敷きました。校内のメインの掲示板には、万が一不審者に遭遇した場合の対処の仕方がわかりやすく理解できるように「イカのおすし」という語呂合わせで示した言葉を大きく掲示しました。「ついていけない」「大声を出す」「知らせる」「すぐ逃げる」「不審者の車には乗らない」を語呂合わせて「イカのおすし」というかたちで子どもたちに意識化させるようにしました。

私たちは今まで述べてきたように、子どもたちにいろいろな場を通して安全に学校生活を送れるように、そういう取組を進めてきました。しかし近年、学校への不審者の侵入や、子どもたちの誘拐など、子どもたちの命さえも脅かす事件が増加しています。交通事故も依然として多く発生している状況にあります。そこで私たちは学校教育においてはもちろんのこと、地域ぐるみの学校安全として取り組んでいかなければなら

ないと考えます。地域ぐるみの取組によって安心安全のまちづくりをしていくことが今求められています。そのためには、学校・地域・保護者・そして関係機関が連携していく必要があります。

そこで本校では、ここでも挙げましたように、学校運営協議会制度を活かしながら、その中の一つの組織としての「地域ぐるみの学校安全部」を組織していただきました。そして、その中で防犯や生活安全、交通安全の面で取り組んでいただいております。具体的に地域・PTAの方々の協力を支援として、原則として毎月1日と15日の安全の日に8時から約30分間の登校指導をしていただいております。後にふれますが、事故事件の発生率が圧倒的に多い下校時の校区内をパトロールする「見まもり隊」の活動、スクールガード・リーダーの活動、そして警察のパトロールおよび横断歩道での指導なども実施いただいております。また自転車教室や交通安全教室の開催などを行っています。さらにPTAからは、昨年度全校児童へ防犯ブザーを贈呈していただきました。また、子どもたちが楽しみながら防犯の学習ができるようにと、上京警察署の方と我々教職員とで自作の劇を演じながら、子どもたちの防犯への意識を高めるような取組もいたしました。

「見まもり隊」の活動について簡単に報告いたします。子どもたちが安心して安全に暮らすことができる地域にすることによって、子どもをはじめそれぞれが地域の一員としての自覚をいっそう高めていくことができると考えています。そこで、具体的な取組として、子ども・地域・正親安全見まもり隊が結成されました。事故事件の発生が圧倒的に多い下校時の校区内をパトロールしていただいております。写真は子どもたちが校門のところで「さようなら」と挨拶しているところで、下校指導の場面です。子どもたちも地域の方やPTAの方に「さようなら」と挨拶をし、見まもり隊の方からも「気をつけてね」と声をかけていただいております。

私たちは昨年度安全マップを作ろうという取組をしました。安全マップを作っていく上での流れは次のようになります。毎日の登下校で子どもたち自身が気付いたことをこまめにメモしていきます。学級や町集會



でそれらをお互いに交流し合います。

「こども110番のいえ」の訪問。子ども安全パトロール隊を保護者・地域・PTAの協力を得て行き、町グループで安全マップを作成する作業を行いました。その中でマイ安全マップ、これは自分自身の安全マップです、それぞれの家庭で活用していただいております。正親学区安全マップの作成。これについては正親全通学区の家庭に配布をいたしました。登下校の安全についての安全指導に、講師として昨年度上京警察の方に加わっていただき、話をさせていただきました。制服のおまわりさんを前にして、子どもたちはやや緊張気味でした。

この写真は全校児童を町別の小さなグループに分けて子ども安全パトロール隊を組織し、地域の方々やPTAの方々そして上京警察署の協力を得ながら、校区の危険な場所や交通安全にかかわるものについて調べたり、あるいは「こども110番のいえ」を訪問して、その家の方の意見を聞き、それらのことを1枚の地図にしていこうというものです。

写真は出発式の様子で、いよいよ子ども安全パトロールの出発になります。地域やPTAの方々や校区の危険な場所や交通安全にかかわる場所を調べたり、「こども110番のいえ」を訪問したりしました。今4人の子どもが「こども110番のいえ」を訪問して、いろいろインタビューをしているところです。「こども110番のいえ」を訪ねて、挨拶をし、安全や防犯など気になることについて地域の方からお話をいただき、それらをメモしながら学校に持ち帰って、1枚の地図に仕上げる、そういう活動を行います。1年生から6年生までの安全グループで、「こども110番のいえ」に行き、いろいろな質問をしているところです。取材してきたことをもと

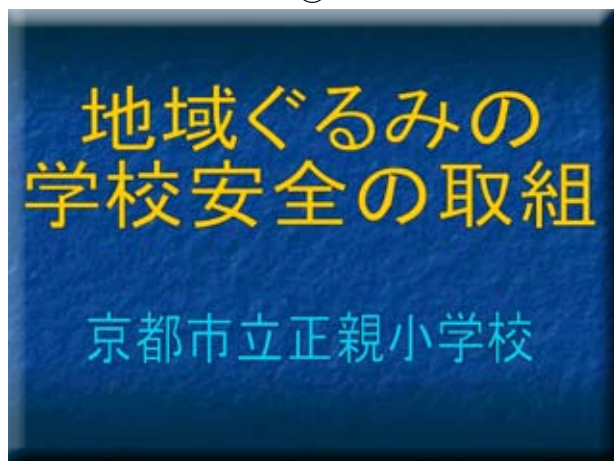
に、みんなで安全マップ作りに取り組みます。少しできたら、グループで見せ合って確認しあいました。さらに相談しあって、修正したり、書き直したりしました。「こども110番のいえ」を訪問した事や校区で危険なところ交通安全にかかわることを取材したこと、それらを自分の安全マップにまとめました。地域やPTAの方からもアドバイスをいただきました。

縦割りグループでの学習の様子です。通学路の安全や安全にかかわる事柄を調べました。それぞれのグループが調べ話し合い、交通の面で危険な箇所、防犯の面で気をつけたほうがよい場所、その他危険だと思われる場所を3つに色分けしてまとめたものが、この「わたしたちの正親交区安全マップ」です。子どもたち自身の足で稼いだ貴重な情報です。それぞれの家に持って帰るだけでなく、地域の一員としての自覚を一層高めていてもらいたいという願いも込めて、先ほど申しましたように正親通学区の全家庭に配布いたしました。

以上、昨年度そして今年度の正親小学校の安全教育の取組について報告をさせていただきましたが、これで取組が終わったというわけではありません。先ほど申しましたように、学校・地域・保護者そして関係機関が連携して取り組んでいくことが大切であり、その活動が息の長い取組となるようにしていくことが大切だと思います。そのためには気楽に、気長に、危険な、という3つのK。3つのキットを大切にしていこうということが、今後、大変重要になっていくのではないだろうかということをお話させていただき、正親小学校の取組の報告を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。



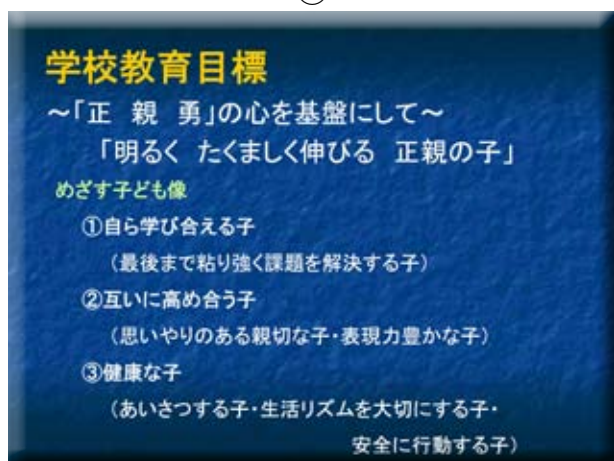
①



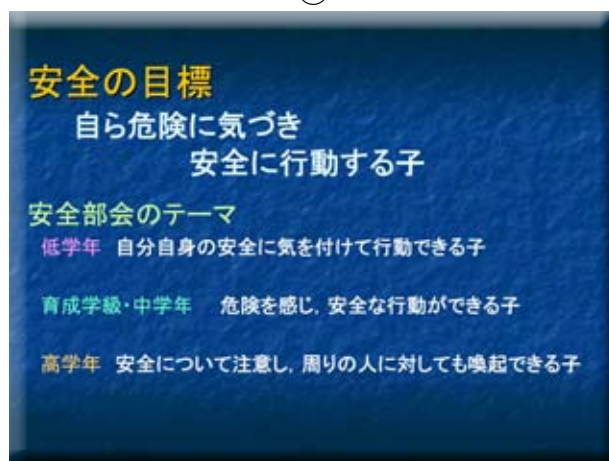
②



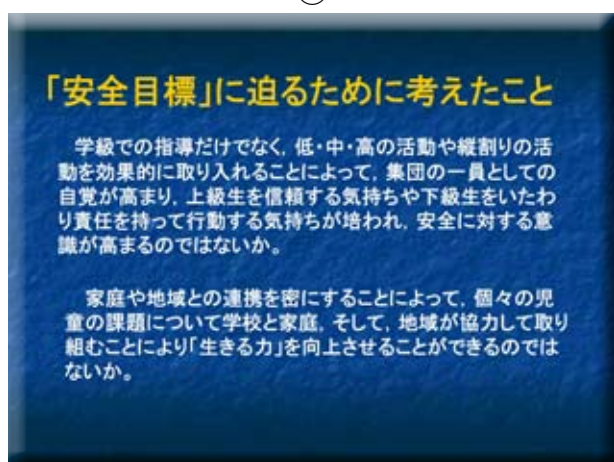
③



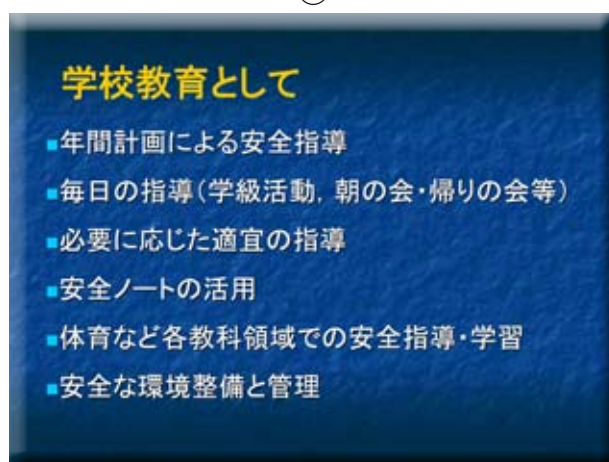
④



⑤



⑥



⑦



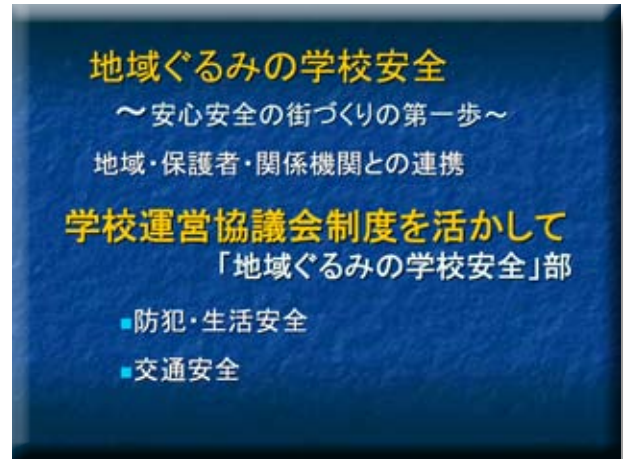
⑧



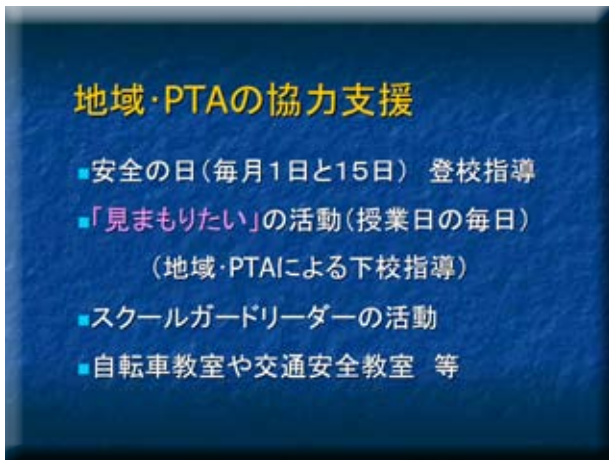
⑨



⑩



⑪



⑫



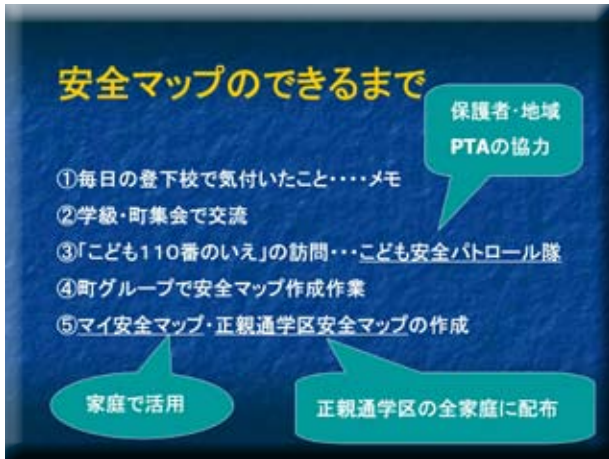
13



14



15



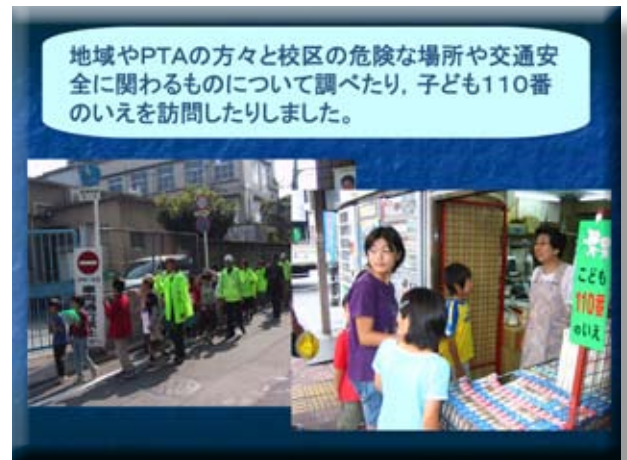
16



17



18



①9

「子ども110番のいえ」訪問



②0

子ども110番のいえを訪ね挨拶をして、安全や防犯など気になることについてインタビューしました。



②1

1年生から6年生までの安全グループで、子ども110番のいえに行き、いろいろな質問をしてきました。



②2

さあ！みんなで安全マップ作り



②3

さらに相談し合って、修正したり書き直したりしました。

少しでもしたら、グループで見せ合って、確認しあいました。



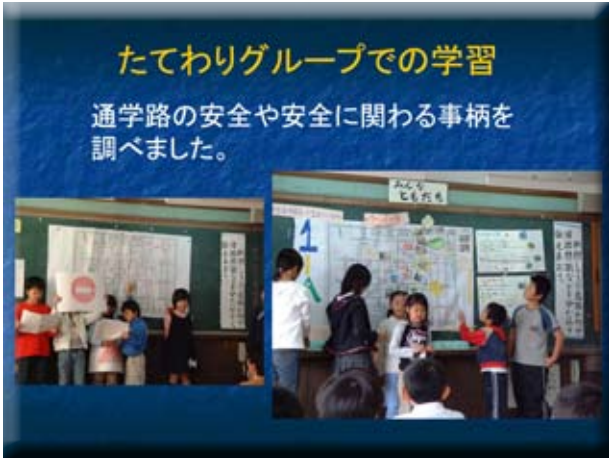
②4

子ども110番の家訪問したことや校区で危険な所や交通安全に関わることなど取材したことを自分の安全マップにまとめました。

地域やPTAの方にもアドバイスをもらいました。



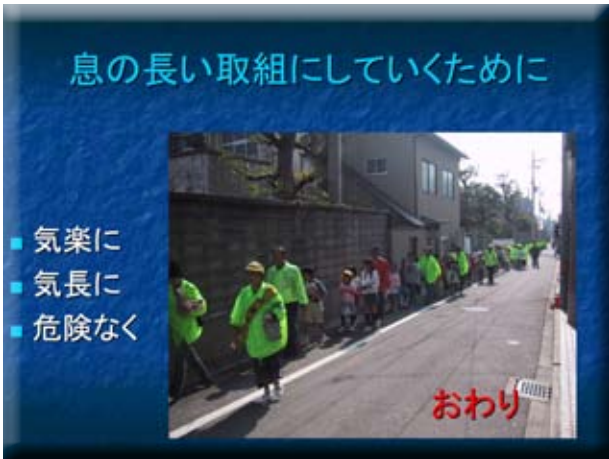
25



26



27



パネルディスカッション

司会：京都市教育委員会指導主事 市川

パネルディスカッションのテーマは「地域安全マップの充実と子ども安全」です。パネラーの方の所属とお名前をご紹介させていただきます。学校関係を代表して京都市立山ノ内小学校教務主任の久保賢洋先生です。次にPTA 関係を代表して京都市立洛央小学校PTAの駿河 悦子様です。地域の方を代表して、先ほど実践報告していただきました正親小学校区にお住まいの上京平安レディース代表麻田 恵美子様。最後に関係機関を代表して京都府警察右京警察署生活安全係長の杉野 孔明様です。このパネルディスカッションをコーディネートしていただきます、同志社大学大学院教授の谷口 知弘先生です。

それでは先ほどの赤と青のカードと付箋の方の使い方も含めまして、谷口先生の方にマイクをお渡ししたいと思います。よろしくお願いたします。

コーディネーター：谷口 (同志社大学大学院教授)

本日のパネルディスカッションのコーディネーターを務めさせていただきます同志社大学の谷口です。資料の中に、黄色い付箋紙がついた紙をお取りください。まずこの紙を見ながら、今日の趣旨そして進め方を簡単に説明させていただきます。上から順に、今から第2部パネルディスカッション地域安全マップの充実と子ども安全スタートです。このパネルディスカッション

を通じて、皆様に持ち帰っていただきたいことを書かせていただきました。大きくそれぞれ皆様学区から出てきていただき、各学区で子ども安全活動を実際にすすめていただいている、そしてこれからもすすめられるという、その上でいろいろなご苦労もありますが、今日この会場で出た意見を聞いて、なんとか乗り越えて頑張っていこうという元気を感じて帰っていただけたらというのが一点です。

もう一つは具体的に役立つ知恵や工夫を、今日ではできる限り具体的な話を皆様と一緒にしていきたいと思えます。一つでも二つでも明日からでも、うちの所の地域でもできる知恵、工夫を持ち帰っていただけたらと思っています。

具体的には、大きく2つに分けておまして、まず1つは地域の安全マップを充実していくためにどうしたらいいかという事。そしてもう1つは子どもの安全に関わる活動全般について、特に継続、先ほど田中先生からもお話がありましたが、息長く続けていく、そのためにはどうしていったらいいのだろうというあたりで、皆様からご意見ご質問を含めて進行していきます。まず私が趣旨の説明をし、その後、パネリストの方4名の自己紹介と活動の紹介をしていただきます。そして3番目で地域安全マップについて、4つ目に子ども安全活動にかかわる全般についてお話をいただき、最後に皆様からの質問や提案の紹介と意見交換もしたいと思います。

そこで登場したのが黄色い付箋紙です。四角の枠の



中を見ていただきますと、付箋紙に質問や意見を記入して、そして皆様もこのパネルディスカッションにご参加くださいという呼びかけがかいてあります。知恵や工夫を持って帰るといっても、パネリスト4名それぞれの地域でいろいろな工夫をされておられますが、やはり4人よりも会場にいらっしゃる約200名の方の知恵を足したほうが良い知恵や解決のアイデアが出てきます。記入にはいくつかのルールがあります。4~5枚それぞれ貼られていると思いますが、1枚に1つの事を書いてください。例えば1枚に安全の事それから活動全般の事を書いたら、皆さんから見て左手に、模造紙が3つ貼ってありますが、分けて貼っていこうと思っています。一番右から地域安全マップについて、真ん中が子どもの安全活動全般について、一番左がその他お気づきの点を出していただくという趣向です。1枚に2つの事を書いていただくと、鋏で切って切り離して貼らなければいけないことになります。

もう1つ道具を用意しましたが、赤と青の画用紙が袋に入っています。皆様がどういう気持ちで活動されているのか、全体でわかりたいと思い、YES、NOゲームをはさんでいきます。YESが青でNOが赤です。今日はいい天気である。皆様まじめですね、青が一枚もありません。そういうふうにやっていきます。

まず最初にYES、NOゲームで皆様がどのような気持ちで関わっておられるかお聞きしていきたいと思えます。それぞれの学区からPTAの方、地域の方、学校の先生方に来ていただいておりますが、ご自分の地域は子どもたちにとって安心安全な地域である、YESかNOか。まわりがどんな色の具合か、写真に撮っておいてください。予想が外れたといえますか、悲しい事件があり、その直後は危機感が募っているはずですが、危機感がほとんど出ていないようです。活動されている皆様の状況は「YES」、安全であるが多かったです。解釈はいろいろありますが、活動の実績の裏付けとしてシンポジウムを進めます。

各パネリストの方に自己紹介と簡単にどのような活動をされているか、併せてご紹介をお願いします。



久保（山ノ内小学校教務主任）

山ノ内小学校に勤務しております久保です。本校は東西を西小路通り、天神川通り、南北を四条通りと御池通りで挟まれています。児童数は約400名。人口は校区内9千人といった校区です。今年で勤務7年目です。昨年度まではほぼ毎年、学校安全主任をして、今年から教務主任として勤務しています。

本校は一昨年の平成17年度に地域の方々と共に地域ぐるみ通学路総点検というのを行い、そのあと安全マップを作成する活動に取り組みました。今日はその活動を振り返りながらディスカッションに参加させていただこうと思っています。

駿河（洛央小学校PTA）

洛央小学校PTAの駿河です。洛央小学校は3年前に安全マップを作成し、その当時の地域委員の方が作ったものを私は2年前に地域委員をやり、そのマップの更新をなるべくスムーズに子どもたちにわかりやすくより良くしようという活動をいたしました。今日は自分のした事について、お話できればと思っています。

麻田（上京平安レディース）

麻田です。私は上京の平安レディースのリーダーを務めています。平安レディースとは、防犯推進委員の女性のみで結成された団体です。女性の視点から私たちの町の安心安全の見守りの活動を行うことを目標に行っています。

具体的には、4月には小学校へ出向き、新1年生に対して防犯教室として誘拐防止のお話をしています。子どもたちにはPRしますが、「イカのおすし」とか、そういう類の事を、小さい子どもたちに細かくわかりやすく指導しています。また「見まもり隊」の一員として、登下校のパトロールまた校門での立ち番などさせていただいております。

今日は私たちがしていることを皆様のお役に立てればと思っ参加させていただきました。

杉野（右京警察署生活安全係長）

右京警察署生活安全係長の杉野です。私は警察官です。私は警察官を拝命して約30年になります。私が拝命した頃には、小学生に行って話しをするということはありませんでした。それだけ治安が悪くなったのかなと思います。警察が小学校まで行っているいろいろな防犯訓練をしなければならぬ時代はなくなってほしいというのが本音です。

しかし現実には防犯訓練に学校に赴いたり、児童の誘拐連れ去り等声かけをふくめて防犯指導をしたり、またPTAの方の護身術という教室を開いたりと支援をし

ています。子どもそれぞれの警察署に防犯推進委員連絡協議会というのがございますが、その事務局が生活安全係なので、活動に支援が必要であれば、声をかけていただければ警察署で支援ができるのではないかと考えております。

警察といえば敷居が高いと思われるかもしれませんが、今は非常に敷居が低くなっています。まずは各警察署の生活安全係に足を運んでください。

■コーディネーター：谷口

これから4名の方と会場の皆様と一緒に安心安全の活動について考えていきたいと思えます。それでは地域安全マップの充実ということについて話を進めていきます。ここでもう1回 YES, NO ゲームをさせていただきます。安全マップの話をするので、どの程度作っておられるかお聞きしたいと思います。自分の地域では、地域安全マップを作っている。YES か NO か。作っていないのが悪いというわけではないので正直に!8割が作ってらっしゃいますかね。同じ地域の方が並んで座って、なぜか違う色が出ているという不思議な現象もあります… ではこれから地域安全マップについて、充実のためにまずはどのようにしていけばいいのかを、まずはパネリストの方からお話いただきたいと思えます。作成していく上でどのような苦労や課題があったのかという事についてまずお聞きし、その次に課題や苦労をどう知恵や工夫で乗り越えたか、もしくはこんな成果が出たよという話をお伺いしたいと思います。まず久保先生からお願いします。

■久保

YES, NO ゲームを見させていただきました。ほとんどの地域が青色 (YES) でしたので、私の話は果たしてどれだけ役に立つのか、むしろ教えていただきたいという感じで見させていただきました。本当に初歩的なところからですが、まず一昨年度、安全マップを作ろうとなった時です。まず誰が作るのか、どうしたらいいのか。一昨年度、ご存知のように広島や栃木でいろいろ子どもを巡る非常に悲惨な誘拐事件と殺人事件が起きましたので、危機感を持っていたのですが、では誰がどのようにしてつくるかとなった時に「は？」というところでした。それをどうして乗り越えたかというところを、少し思い出して話をさせていただきます。

■コーディネーター：谷口

確かに危機感があって作った方がいいのはわかっているが、実際、誰が動いてくれるのかというのはどの地域でも悩みとしてあるかと思えます。

■駿河

子どもは、3年前に校長先生の方から地域委員さんに安全マップを作ってくれないかという話があり、校長先生ともお話をし、月1回やられている地域パトロールの結果をどうにか集計し、いいものを作っていこうという形で作っていききました。

洛央小学校は7学区が統合した校区が広いところで、集団下校が15ブロックに分かれています。こちらをみんなで確認し、作り上げて、子どもたち地域委員先生がパトロールをしてそれを確認して最初のマップを作ったということになります。具体的な方針についてお話できたらと思っております。

■コーディネーター：谷口

誰が、という久保先生の問いに対して答えが出たようですが、地域委員というとPTAの方が中心になって作られたということですね。それと、更新をどうするか、これも1回作ったら終わりというものではないようなので、そのあたりもひとつ課題として出てきたかなと思えます。

■麻田

正親学区の安全マップは、先ほども見ていただいたような経過で作られましたので、完璧とはいえないと思えますけれども、私は子どもたちが中心になって作ったということが素晴しかったと思えます。5~6年前になりますが、私たち平安レディースと警察の生活安全課の方達と協力しまして、あんな大変なマップではなかったのですが、「こども110番のいえ」がどこにあるかという簡単なマップを作って、小学校へ持って行って掲示させていただきました。それは果たして子どもがきちんと見てくれているかな、防犯教室で行くたびに、私たち平安レディースは話をさせてもらいましたけれども、ちょっとそういう不安がありました。この度私たちも一緒に地域の一人として子どもたちと参加して、子どもたちの目から見た危険な場所とか、交通の危険な箇所、子どもの目と大人の目でみるのは違うんです



ね。そういう所へ来た時、「こんな所が危ないと思うの？

でもこっちの方も気をつけないといけないよ」という言葉をかけることもできましたし、去年は西陣警察署のお巡りさんも一緒に歩いてくださいました。交通標識についても子どもたちに一つ一つ丁寧に説明していただきましたので、子どもたちも作るうえで実感があつたのではないかと思います。そういう意味では地域と警察と子どもが一体となって作った安全マップは、全家庭にも配布しましたし、きっと安心安全の街づくりにはすごく役立っているのではないかと考えております。

■コーディネーター：谷口

平安レディースでは大人の方が中心となって安全マップを作った。でもそれを実際に見てくれているのか不安があつたけれども、先ほどご紹介いただいた正親小学校では子どもたちも一緒に地域と警察で作ったということで、その不安がみんなと一緒にやるということで1つ解決できたというお話ではなかったかなというふうに思います。

久保先生、誰がどうしてというあたりはどのようにして解決されたのか、お話を聞かせていただけますでしょうか。

■久保

正親小学校さんが話されましたが、大人がやっても意味がないなということで、ではもう子どもたち全員でやろうと、ところが400人全員でやるとなかなか難しいので、そこで町別児童会です。すると全校児童を網羅できます。ご存知のように小学校は1年生から6年生まで5年間隔離れている子どもたちがいます。1年生も主体的に活動させよう、してほしいと、6年生5年生の高学年だけではなく、1年生からも活動させたいと思っていました。いきなり安全マップはどうしようもないので、まず安全マップを作るための情報が必要だろうというところで平成17年12月、寒い時期でしたが、集団下校を利用してみんなで下校しながら通学路を総点検しました。そこにはもちろん子どもたちだけではなく、町別担当の教職員、それから町会長と地域の方々、自治会連合会の力で山ノ内児童安心安全見まもり隊、赤い帽子をかぶった赤帽の監視ボランティア、見守りボランティアとも呼んでいるんですが、700人体制で平成13年度から組織していただきました。その方々も来ていただき、総勢500名を超えるようなかたちで通学路総点検をして、どこが危険なのかを、1年生なら1年生の目線、6年生なら6年生の目線で見ようじゃないかということで、集団下校をして総点検をしてみました。全校児童で実施をしました。地域全体で協力していただき、子どもを中心主体にしながら大人がバックアップをする

というかたちで、まずマップ作りの前段として通学路の総点検をやらせていただいたという次第です。

■コーディネーター：谷口

大人だけではだめなので、子どもと一緒にということ、そこに地域の方も非常に積極的にご協力されたというかたちでしょうか。駿河さん、どこでも悩んでおられる更新についてもお話をお聞かせ願えますでしょうか。

■駿河

洛央小学校の安全マップというのは非常に大きくて2×3mぐらいの大きさで、玄関のホールに置いてあります。子どもたちは自分の家がどこにあるかとか、目印がいろいろあり、それを新しく追加したりというような作業を初年度やっていたと記憶しております。最初の初年度のマップは地域委員の方・子どもたち・先生で保護者が地域パトロールって月1回4ブロックに学区を分けまして30分ぐらいパトロールをして危ない所をマップにチェックして持ち帰ってくる事が、それをずっと行っていました。それを反映するかたちで、最初は交通安全が非常に重視されていて、危ない所の写真を撮る、ここが危ないよとA4ぐらい写真を貼って、子どもたちに注意を呼びかけます。わかりやすいイラストとか「こども110番のいえ」とか五条警察署であるとか、そういうかたちで子どもたちが見やすいものを作っていました。私たちは校長先生にこれを継続してほしいと地域委員として言われ、また新たに写真を撮りに行こうかどうしようかという話をしていました。地域委員に出席してくださる方が全員というわけではありませんでしたので、今まであった地域パトロールという情報をもとに更新していこうと、そう基本的に考えました。それで、交通安全主体のところから、洛央学区は非常に校区も広く、交通量が多くて路上駐車駐輪が多いという交通安全面と、工事現場が多いので大型の工事車両の出入りが多い、あと不審者による声掛けも起きています。そこで交通安全重視から様々な情報を大きなマップの中に盛り込んでいきたいと考え、ちょっと見づらいと思うのですが「危ないよ」「車がたくさん通るよ」というマークを作り、切り取ってマップに貼り付けるという作業をしました。「声掛け」と書いてあるのは、お友だちが知らない人に声を掛けられた場所だよということで、注意を促そうとこのマークを切り取って、警察から学校に不審者情報が来るのでそれを貼っていくという形です。また月に一度地域パトロールをしているものですから、工事現場がなくなったり、コンビニがなくなったら路上駐車がなくなったりとか、いろいろ変わるものも順次更新して貼り変えていくというかたちにしました。

「こども110番のいえ」は緑の旗のステッカーを貼って、コンビニと公園をマップに追加で載せました。コンビニを載せたのは、「こども110番のいえ」もたくさんありますが、普通のお家は玄関が閉まっていることもあります。コンビニがなっていると、何かあった時に子どもたちが駆け込んでいける場所ということです。コンビニは子どもたちにとって身近で目印にもなるし、逃げ場にもなると考えたのです。コンビニもたくさんありますので、それを載せて子どもたちに注意を喚起しました。労力を最小化して、更新を定期的にしようということで、現在ある状態を活用するというかたちで、いちいちマップを描きかえるのではなくて、貼りかえるという作業で更新をするようにしました。

■コーディネーター：谷口

初回作った時と同じことをするのはいろいろ大変で、できる限り少ない力でよりよいものを作る工夫そこに知恵をたくさん出されたということだと思います。その知恵の中には最初は交通安全のためのマップだったけれども、そこに防犯のための要素を盛り込まれました。正親小学校も同様に防犯だけではなく交通安全とセットで作られているということです。息長く続けるためには、防犯だけではなく交通安全という取り組みとセットで安全安心ととらえてマップを作成する活動をしていただくというのもひとつあるかなというふうに思います。

マップ作りの内容で気になったところが1点あります。どういう視点で地域安全マップを作るかということですが、これは多分、この講習会で横矢先生も講演いただいていると思いますが、犯罪が起りやすい場所はどこかという事をマップに落としていきたいと思います。不審者がどこに出たという不審者マップや、ここで犯罪が発生したよという犯罪発生マップ、これは大人にとっては非常に注意する上で有効ですが、子どもたちはそれで覚えてしまいますと、学区の中だけで子どもたちは生活をしているわけではないので、一步学区の外へ出た時に、不審者はどこにもいない、犯罪はどこでも起こっていないということになってしまいます。犯罪の起りやすい場所はどこなのか、よくいわれるのは入りやすく見えにくい場所、そういう場所がどこであるのかということ子どもたちと一緒に考える、子どもたちに教えていくということがこの地域安全マップの活動においては重要だと言われています。

それともう一つ誰が作るかというところでは、久保先生の山ノ内小学校では、子ども・地域・先生方と一緒に作られた。それから洛央小学校ではPTAの方が中心になって作られた。正親小学校は、学校・地域・子どもたちそれから警察も加わって作られたということ

です。子どもも含めて多くの方が関わって作られるのは一番良いです。しかし準備も大変ですし、地域の状況によってはそれを実行するのが難しいところもあるかもしれません。できればそうするに越したことはないと思いますけれども。洛央小学校のようにPTAの方が中心となって、子どもに見てもらい、いろいろなマークを作られたり、色を使ったり、そういう工夫をされて作られる、そして子どもたちに積極的に活用を促していくということも非常に重要ではないかと思う次第です。まだまだ聞き足りないこと、もしくはご自分の地域でこういう工夫をしたというのがあると思います。まだ付箋紙が出てきていないので、ぜひお気づきのことがあれば遠慮なく書いてください。杉野さんにはいろいろな小学校を見ておられて、安心安全のマップの活動はどのようにご覧になっていらっしゃるでしょうか。

■杉野

私も山ノ内小学校と一緒にまわりました。私どもが持っている情報は、交通事故、不審者情報です。先生方は小さい子どもたちと一緒に生活をしているので、子どもの目線で見ることができそうですが、警察官はなかなか子どもの目線で見られないです。特に交通の場合は巡視員という女性の職員がおりますので、結構子どもたちに接していますが、生活安全課の警察官となりますと、どうしても大人の目線で見てしまって作ってしまいます。実際に歩いて子どもたちに聞くと、材木が積んであるのを見て「ここが怖いやで」と言う、私は何も怖くないのです。安全マップを作るのは子どもたちの目線で作るということが一番大事ではないかと思っています。

■コーディネーター：谷口

子どもの目線で作るというためには、子どもが参加するのが一番だし、大人が作るとしたら子どもの目線をしっかり意識して作っていくということが重要です。続きまして、地域の安心安全の活動全般を継続していく上での課題、工夫についてパネリストの皆様からまずお聞きしたいと思います。

■久保

杉野さんから出た「子どもの目線」はすごく大事です。特に通学路総点検をしたときに、1年生がどうして参加したのか、ただ歩いているだけではなかったのか言われました。実は1年生がつぶやく、「ここが怖い」「ここつまづいた」などを全部5年生6年生の班長と副班長とまわりの大人がメモしました。そうすると小さい子は喜んでつぶやく。それを取り上げて次は安全マップを作る段になった時に、僕の、私の意見が出たとい

うことで1年生2年生にしたら期待を持ったのではないかと思っています。マップ作りがあった次の年度、平成18年度になった時に「先生ここ危なかった」「うちの子がここ危険かなと言ってます」というかたちで学年を問わず話がでてきたのが良かったかなと思うのが一つと、活動のキーワードを「皆で楽しく」作れないかということで、手作りのシールをマップ作りの時に貼って、喜んで貼っていました。

今年度、夏に光化学スモッグ注意報がたくさん発令された時に、黄色い旗を立てるという習慣を安全マップに入れてなかったのが、それも入れようとシールを作って、本校は畳二畳大の大きさですが、それにまた貼っていったので、それも一つの更新になったかなと思います。

本校の課題としては平成19年度2年目になってちょっと意識が下火になってきています。本校では3年生から地域学習を開始しますが、そこで使う校区図の変わりに安全マップを使ってくれています、それをもとに校区探検をしてきているということで、新しい利用方法ができていると思っています。更新をどうしていったらいいか、どんな情報を新たに入れていったらいいかというのは、本校の課題と考えています。

■コーディネーター：谷口

久保先生から、子どもたちが関心を持ち続けて自主的自発的にどうやったらやっていけるかという点で、非常に良い工夫を教えてくださいたいと思います。皆で楽しくとシールを使うあたりは洛央小学校でもされていますが、工夫をすることで子どもたちの関心を継続させていくという。こういう場ですと地域の側が、活動をどう継続していくかという話になるのですが、主役の子どもたち自身が関心を失うと何をしているかわかりませんので、新しい視点を提案いただけたかと思っています。

もう一つは正親小学校も山ノ内小学校も1年生から6年生まで縦でチームを作ってやられているという点、1年生のつぶやきを5年生6年生がメモするという、これはいい勉強になりますね。

■久保

5年生、6年生は責任感も出てきました。自分の町内の1年生2年生は面倒を見ないといけないし、せっかく発言があったので書かないといけないなど、責任感も生まれてちょっと引き締まりました。

■コーディネーター：谷口

ここでは言えない苦勞もあったようですが、子どもたちと一緒に町別児童会で、正親小学校も地域ごとですね、そうすると自然に縦割りになります。そ

こで1年生から6年生まで一緒にやるとコミュニケーション能力が高まる、責任感が生まれてくるなど、防犯に直結することではなく、子どもたちの総合学習をされているような生きる力がそういう活動の中から生まれてくると言われております。そのあたりも視野に入れて活動の幅を広げていただくというのも一案かなと思います。

■駿河

マップは作られたのですが、マップを見るだけでは安全を守れないだろうということで、地域の方とのつながりというのを、子どもたちそれから保護者も含めて持たせたいということで、ブロック別の縦割りの集団下校の時に「こども110番のいえ」を確認したり、挨拶をしましょうという「おはようお帰りポスター」を子どもたちから募集して500枚ほど作りました。文字のところに各自好きな色を塗り、集団下校の時に地域委員だけではなく保護者も任意に参加していただいて、110番のいえ以外のコンビニなどにも貼らせていただき、子どもたちとPTAと地域というつながりをもたせるという事で、みんなに「おはよう」「お帰り」って言ってもらおうという活動を、子どもたちに自主的に、自分たちで色を塗る事でマイポスターという感覚で、参加していることに自負を持ってもらおうとしております。

地域の方に「子ども見まもり隊」を結成していただき、PTAも参加してお帰りパトロールを実施しております。地域の方には本当にお世話になっている段階ですが、「見まもり隊」には地域の多くの団体から集まっていたもので、企画発案で旗とのはり旗を寄付していただき、毎月10日から20日まで通学路に面した家庭や商店や柵に掲げていただく。もちろん地域の方に協力していただいて雨が降ったら入れていただくとか、よく目立つということで、警戒しているという様子がわかります。地域の人達がみんな子どもたちに声をかけるという状況で、ここの子どもたちは皆に見られているから、犯罪を起こすのに不都合な地域だと思わせて、犯罪の抑止力になってくれたらいいなと考えております。

洛央小学校は校区が7つも集まってできた学校ですので、それぞれの地域でそれぞれの考えをお持ちの方もいらっしゃるの、一つにまとまってしていくのがなかなか難しいというお話もききます。PTAということからいいますと、親子で参加はなかなか難しい状況にあるのかなというふうには思っています。

■コーディネーター：谷口

今もいくつかアイデアいただきました。マイポスター、子どもが主体的に参加する仕掛けを作られた。

それから地域のご協力もあり、旗を立てるといふ。これはやっておられる地域の方もいらっしゃるかと思いますけれども、いま駿河さんがおっしゃってくださったとおり、うちの地域はこんな活動をしているよという事を積極的に見えるかたちにするというのは非常に大事でして、防犯では領域性を高めるといふふうに言います。洛央小学校の学区に一步踏み込んだら、この学区は何か悪いことをしたらすぐに捕まるという雰囲気や地域が醸し出しているという、それが旗を立てたり、ジャンパーを着用した方が地域の中を歩いていらっしゃる、そういうことも地域の領域性を高めていることにつながっているのではないかと思います。洛央小学校は7校が統合されて、元学区の校区それぞれの自治会なり住民福祉連合会の協力というのはスムーズにしているのでしょうか。

■ 駿河

実際、皆様が話し合っておられる場に私は参加していませんが、校長先生にお伺いしますと、中心の学区とといいますか、学校に近い学区と遠い学区があると、近くの方はすごくやり甲斐があるのですが、遠くなるとポツポツしかいないとか、考え方も皆様多少違います。いろいろな団体があるので、学区以外にも皆で調整していくというのがなかなか難しいというお話はあります。ただ皆様本当に子どものために、地域で子どもを守っていくという意識でご協力いただいていると思っています。

■ コーディネーター：谷口

会場からも質問と意見がきています。小学校の合併により自治会としてマップを作成すると、全学区が対象にならないという現状をお伝えいただいています。洛央小学校で玄関ホールに2×3メートルの大きさに貼っているということですが、他の校区ではどのように活用されていますか、ということで。正親小学校はどのように活用してますでしょうか。

■ 麻田

大きいのは学校の掲示板に一つ貼ってあり、個々に小さいのを全家庭に配布していただいています。

■ コーディネーター：谷口

統合された元学区で自治会ごとにマップを作ろうとして作られるというのも非常に良いすばらしい取組だと思います。今の学区全体の地図を作れないから、元学区で作っても仕方がないのではないかとことは決してありません。私も城巽学区のマップ作成にかかわったことがあります。その地域は防犯・防災・交通というのを一緒に作りました。そこでは子どもだけで

はなく、防災になってくると高齢者の方が増えてきます。そうしたらいろいろな安全をセットにして元学区で子どもたちを見守っていきたいという気運を高めて活動しておられました。元学区と統合された小学校の学区とでどのような関係で住民活動が行われていくのかというのは答えを誰も持っていないと思います。おそらく今それぞれの統合された学区、元学区で行われている活動それ自体の中からこれからのモデルが生まれてくるのではないかと思う次第です。

麻田さん活動全般について、課題・工夫・知恵とありましたらお願いします。

■ 麻田

正親学区は最初お話があったように、明治2年の創立以来どことも統合をしていないし、人数は少ない、私から見ればまとまりの良い学校ではないかと思っています。「見まもり隊」を結成する時も、各種団体の方に協力していただくことになり、もちろんPTAの方も子どもの登下校を見守っていますが、課題として「見まもり隊」で出ている者はほとんどが60歳以上で、PTAの保護者の方々と年齢層とあくので、上手くつながっていくのが地域として不安に思います。気楽に気長に危険なくは確かに良いのですが、年をとることは止められないので、いつまでも校門の前で立ち番をするわけにはいきません。それが地域の者としては一番の課題だと思います。マップを更新するという、それぞれ何年かのうちにしていただかなければならないのですが、私が正親小学校の子どもたちは毎年子どもが安全パトロール隊を作って、110番の家を訪問してくれています。どこにその家があるかただ通学路を歩くだけではなく、一軒ずつ声をかけて、インタビューしてくれます。子どもたちもこのおばさんの顔を知っていると思うと、何かあった時にパッと飛び込めるのではないかと、そういう意味で子どもたちの安全意識をずっと継続させていただけたら地域の者としても安心と思います。

■ コーディネーター：谷口

大きく2つ出ましたが、寄る年波には勝てないというか、会場を見渡しても平均年齢40歳とは言えない感じ。平均年齢40歳だと、あと30年40年いけますと言えませんが、見た感じ10年は確実に大丈夫です。20年になるとちょっと厳しいですが、30年先どうするのが非常に大きな課題になってきそうです。これは安心安全にかかわる活動だけではなく、地域のいろいろな活動、消防・少年補導・女性会、各種団体の活動も含めて、どう次の世代に渡していくのかというのは大きな課題になるかと思っています。そういう点では安心安全の取組は危機感があるので、若い人もできます。そういう

場面でぜひ次の世代を一本釣りでもする勢いで世代を繋ぐ努力をしていただきたいと思います。関連した質問で、地域の協力者としてPTAの方ともしっかりコミュニケーションがとれる方法が知りたいというお話がきています。これはいかがでしょう、地域の方とPTAの方がコミュニケーションをする知恵はありますか。

■杉野

パイプ役は学校じゃないかと思います。私も高齢者の方やPTAの方を対象としたいろいろな教室をしますが、高齢者社会になっていますし、高齢者のシルバーパワーを社会に生かすという小さな冊子を配って社会参加をお願いしています。PTAの方の護身術教室では、今は皆さん忙しくて子ども見まもり隊にはなかなか出られないかもしれませんが、いずれ時間が取れる時がきます、その時は出てくださいますようお願いをしています。

■コーディネーター：谷口

一つには学校がパイプ役になると。学校は今いろいろな仕事で忙しいと思いますが、学校が核になって地域の上下の世代をつないでいくというのは一つあるのではないかなと思います。私の経験ですが、ワークショップという5~6人のチームに分かれて、1チームにそれぞれ地域の各種団体の方・PTAの方・小学校の先生に入っただいて意見交換をしていただいた機会があります。5~6人のメンバーで丸いテーブルを囲んで話をするといろいろな話ができます。その中で地域の方はうちの地域は安全だと思っていたのに、保護者は不安を持っていて初めてそのことを知ったとか、地域の方が自分の子どもじゃない・孫じゃないのに子どもの事をこんなに真剣に考えてくださるのを初めて知ってすごく心強く思ったとか、そういう意見が出ました。コミュニケーションをとっていくというのは、どうしたら取れるかという正解が出るわけではないのですが、いろいろな場面で努力をするときっと効果は大きいのではないかなと思います。それではまとめていただいている市川さんからご紹介いただけますでしょうか。

■司会

地域安全マップの分野では「安全マップは総合的にとらえて作っていくことが大事。」「交通マップはあるけれども、安全マップにはなっていない。」「通学路図はあるけれども、地域安全全体にはかかわっていない、そのあたりを総合的に捉えて作っていくことが大事。」「家の中で活用するために、自分の家では冷蔵庫に貼っている。」というご意見もあります。「地域住民に自分の家の前が危ない所なのか、印をつけられたら、それが各家庭に出回ってしまうので、自分の家の前は危な

いと印をつけてほしくない。」というご意見もあります。同時に「今現在安全マップを平面的に作っておられるが、なぜ紙なのか、地下や上の方も危ない所があるじゃないか、これから立体的な考えも必要になってくるのではないか。」というご意見もあります。「行政の方に、危険な所がわかったら、行政での改善策はどうなっているのか。」という厳しいご意見もございます。「更新していくには、今あるものを使って更新するが、同じ人ばかりになるのではないか。」次の安全活動等全般にも同じようなご意見があります。「作業していただく方がある一定の人に偏ってしまうのではないか、仕事があるとか、今日は都合が悪いと言ってなかなか協力いただけない部分があるのではないか。」という意見。「学校・子どもたち・PTA・地域全体で作るのがいいか。安全マップそれぞれの学校は大きなものを掲示してもらえますが、どこでもあるのでしょうか。」各学校どこかに掲示していると思われます。

■コーディネーター：谷口

今、「地域安全マップ」について付箋紙で意見を出していただきました。一つ非常に具体的な例が出ました。地図に自分の家の前が危険と書かれたらかなわない。このあたりはどのように対処していますか。

■久保

作るときに管理職によく相談し、決め付けてはいけなないと、シールでなるべく当たり障りのない表現をしたことと、ここは怖いと刷り込まれると、子どもたちもそこを通るのがいやだと思ってしまうようになってはいけなし、なぜ私の家の前が危ないの？という事になってもしけませんので、それはかなり配慮しました。本校の場合、子どもたちは安全マップを作って、それを行政が作ってくれるということになりました。本校の校区全体の各家庭に区役所から山ノ内の安全マップをもとにしたマップが配布していただきました。えらそうですが、行政を動かしたという意識が子どもたちにもあり、僕たち、私たちの意見が区役所に届いたという思いがあり、非常に満足感がありました。各家庭でもうボロボロになっているところもあると思います。学校にも貼っていますし、家の玄関や冷蔵庫、壁なんかも貼っていただいている、家庭訪問でも見ます。

■コーディネーター：谷口

個人の家の前は、といわれていますが、何か工夫されたことがありましたら、ご意見お聞かせください。やはり久保先生からお話がありましたように、多少の配慮は必要だと思います。その点も踏まえると、マップにどこが危険だと落とすだけではやはり限界があって、子どもたちと一緒にどこが危険な場所か、どうい

う場所が危険な場所になるかということです。自分のまちだけじゃなく、隣りまちに行った、旅行に行った、その先でも公園を見た時にちょっと垣根が高くてここは見えにくい危険な場所だと自分で危険な場所を判断できるそういう子どもを育てるということが、もう一歩手前で非常に重要ではないかと思えます。では続きまして、全般の活動について付箋紙の発表をお願いします。

■司会

子どもの安全活動全般について今日学校現場の先生方もたくさんいらっしゃるかと思います。学校への注文もあります。「見守り活動をしておられる方々への子どもからの挨拶がない。言葉かけが少ない。このあたりは学校の方で指導していくべき事柄かなと思います。」「継続に向けて、登校時は人がたくさんいるけれども、下校時は人が少ない。そこのところでどのようにして人を増やしていけばいいのだろうか、どうしても高齢者の方が多くなるので、今後だんだん数が少なくなるのではないかという心配もあります。」「登録しておられる方は100人、200人あるが、実際活動される方はその10分の1だったり、20分の1だったりします。実際に活動する人達を増やすにはどのように活動していったらいいか。」「同時に交通のことも含めて、一般に通行している人のマナーの悪い方にはどのように注意すればよいか、急に笛を吹いても驚かれるだろうと、それも注意していいものかどうかです。」等

あとは行政との連携ということで、「登下校中の駐車違反の車への対応、青色パトロールの使用申請を警察にしてはどうか、京都市にも数校ありますが、学校の前にパトロール小屋を設置するのはどうか。」「行政と現場の理解があまりにも開きすぎているのではないか。」「行政と現場・学校との連携の大切さ。」等

■コーディネーター：谷口

行政と現場のこのあたりをやりだすと朝までテレビぐらいしなければならぬので、ちょっとそこまで深入りせずに、地域で活動の輪を広げていく。今100人登録していても10人ぐらいという話でしたが、10分の1ぐらいしか実際に活動に参加して下さらないというのがありました。このあたりいかがですか、地域での活動の輪を広げていく工夫なりアイデアなりお持ちの方、もしくは実践されている方いらっしゃいますでしょうか。会場でもこんなことをして成功したというのがありましたらお聞かせください。これに関しては京都一丸となって良いアイデアを共有したいと思います。

■麻田

できたら私はその回答をいただきたいと思っています

す。

■コーディネーター：谷口

地域ががんばっているが、PTAの協力がどうも少ないように見えるというようなご意見ができました。実際そのPTA役員の方はすごく一生懸命になられていると思いますが、一般まで広げていくとどうなのでしょう。

■駿河

一般にPTAといわれると1つの団体として扱われる、PTAの参加がないって言われるのですが、保護者の横のつながりが非常に希薄な団体だと思います。それで地域の方もおられるので皆さん来てくださってと言われても、地域の方と面識がない、保護者同士もあまり知っている人がいないという状況で、一人で参加するのが非常に躊躇される保護者が多いのではないかと思います。私も京都の間人ではありませんし、地域の方とも前のお宅の方と挨拶するくらいと、マンションはつながりがない。本当に横のつながりがPTA同士でもできれば誘い合って出られます。あと地域の方とコミュニケーションをとる機会があればもっと気楽に出られるそのきっかけができるのではないかと、敷居をどんどん低くして、ちょっとでいいですとかたちにすると思います。

■コーディネーター：谷口

自分の子どものことだから、保護者が頑張らないといけぬ、出てこなければいけないという気持ちもわかりますが、PTAの保護者のほうでも新住民で入ってきたら、どこに出て行ったら地域の活動にかかわれるのかという窓口・入り口さえわからないという事もあるかと思っています。道ですれ違って地域の重鎮の方は非常に恰幅もよくて、このおじさんに声をかけていいのだろうかというところもあるかと思っています。ぜひ新住民の方、若い方も入ってこられるような楽しいイベント、例えば運動会とか文化祭とかそういうところで工夫さえている学区もあると聞いております。そういうものも必要かと思っています。それから、会場からお答えのアイデアをいただいております。どうしたら参加しやすくなるかということで、犬の散歩を登下校時にお願いしているということですね。防犯活動してということではなく、犬の散歩をするのだったら登下校の時間にしてよというお話、それから門掃きと見守りを一緒にお願しているという、一石二鳥で街はきれいになるし安全になるし、門掃きなどのアイデアも取り入れていただけたらと思います。

■司会

安全マップの更新について「マップの更新データを

デジタル化すれば更新し易いです。」というご意見もいただいています。行政との連携で「不審者の情報が若干少ない。」というお言葉があります。杉野さんよかったですらお返事いただけますか。

■杉野

不審者情報につきましては、はっきり申し上げて一部出していないものもあります。なぜなら事件になってしまったということについては、被害者の方のプライバシー、特に保護者の方の了解を取ってからしか公表しておりません。了解が取れても、はっきりとはなく、ぼやかして出しています。例えば、「手を引っ張られて連れて行かれそうになった」と表現します。仮に連れて行かれても、「連れて行かれた」というふうには表現していません。もしかしたら連れて行かれたのかなと判断していただいたら結構ですが、一つはこういうことがあったから自分の子も注意して、近くの子も注意してということで公表しております。一つお願いがあります。最初の情報を公表した時は気をつけようね、となるんですが、時間が経つと被害者探しになっていきます。どこの誰がどんなことをされたか。そういうことは、はっきり言って関係ないんです。最初の情報だけで判断してほしいと思います。そういう点を考慮してすべてを公表しておりませんので、例えばこういう事があったけれども、お巡りさんもパトカーも来ていたけど、何も公表されていないねということがあることがあるかもしれません。でもそれはプライバシー保護の観点で公表していないということをご了承ください。

■コーディネーター：谷口

私も京都府警のメールを登録してまして、多いときで一日に2~3件、確実に一日に1件はどこそで不審者が出たとか、最近引ったくりが多いです。ついでに引ったくりについても一言お願いします。

■杉野

皆様、女性の方は斜めにかけるかばんを使ってください。自転車の前かごには防犯ネットを付けてくださいと口すっぱくお願いしていますが、なかなかしていただけません。先生も帰って学生に指導してください。

■コーディネーター：谷口

本日は地域安全マップの充実と子どもの安全というテーマでお話をしてきましたが、最後は杉野さんのほうから引ったくりの話も出ました。活動の中では子どもの縦のつながり、それから地域での世代を超えたつながりを作っていくというお話も出ました。そのあたりを考えますと、子どもの安全を確保したいと、子ど

もを地域で守っていききたいというのは多くの方が共感できること、危機感を持っていることだと思います。それをきっかけに地域での顔の見えるつながり、関係というのが生まれていく。防犯についても子どもだけではなく、高齢者の方と子どもたちが顔見知りになっていく、PTAの方と顔見知りになっていくという機会が増えれば、高齢者にとっても安心安全なまちになっていくのではないかなと思います。

今日出していただいたご質問・ご意見すべてをご紹介できず、すべてについてお答えできませんでしたが、地域の顔の見えるつながりを楽しく作っていくことは大切です。先ほどの正親小学校の言葉をお借りして、気楽に、気長に、危険なく、無理なく長くやっていく体制作りというものを、今日出てきた具体的なアイデアで一つずつ取り組んでいただきたいというふうに思います。私自身も伏見区に住み、子どもが小学校4年生で、今年親父の会の代表をしています。親父の会という仕組みも先ほど出ていた、地域での活動をする人を増やす面白い仕掛けだと思っています。親父は集まって飲んでいることが多いのですが、それでも地域で顔のつながりができて、PTAの活動に参加したり、地域のお祭りに店を出したりという活動をしています。そういう機会を住民はじめ、各種団体で新住民の方、若い方、PTAの方に対して作っていただきたいと思う次第であります。

最後、何か伝えておきたいということを杉野さんお願いします。

■杉野

最近、保護者の間でチェーンメールが流れて、具体的には八幡市の何々というスーパーで女の子が連れ込まれて悪戯されたという内容です。そういうメールが保護者の間で流れています。そういう勝手なメールを信用しないでください。またそれを他人に送らないでください。子どものチェーンメールと一緒にです。そういうことがあれば警察の方に連絡していただいたら結構です。これは単なる悪戯メールです。気をつけてください。

■コーディネーター：谷口

チェーンメールが届いたら、誰かにすぐに送らないといけないと思勝ちですが、それをすると大変なことになりますから、確かな情報だけを回すようにしましょう。

本日はどうもありがとうございました。

ワークショップによる参加者からの意見

1 地域安全マップについて

○地域安全マップの作成・更新の現状

- ・2年前にPTAに依頼して作っていただいた。当時は全校児童850名ほどだったので、全員配布は大変だった。安全マップはA4版カラー印刷でパソコンを使って作成した。しかし、更新が大変。（去年も今年も新入生が150名ずつ入ってきているのだが…。）
- ・PTAが中心となり地域安全マップができましたが、地域の方にオープンにしていないうちに気づきました。今後、早速地域の方にもみていただき、追加などもしていただく必要があると思います。
- ・地域安全マップを作成するには、危険な所や交通量の多いところなど学区民の協力が必要であり、子どもや教員の意見も必要。
- ・自治連の消防や防犯・シルバークラブ・女性会等の方とタイアップして、いろいろな情報を一枚の地図に重ねられるようにしていくと多くの人の目で安心・安全マップができるのではないかと。元の地図があれば、いろんな方面から安全マップができあがり、地域ぐるみで作れるのではないのでしょうか。
- ・子ども自身が危険な場所を見つけていくことは大きな意味を持つ。正親校のように小グループに分かれて取材・話し合い・安全マップ作成をすることが望ましいが、児童の多い学校では難しいだろう。そこで、ある学年が毎年総合的な学習の時間を活用して学習していくのも一方法かも…。
- ・安全マップは大切。高学年を中心に子どもも参加させた安全マップづくりが大切である。参加することにより関心も高まる。
- ・変質者や痴漢等がでたら、マップに印を付け、付近の住民に注意を促してほしい。
- ・安全マップの更新はデータをデジタル化すればしやすい。
- ・通学路マップはあるが、安全マップとしては不十分と思う。
- ・少し古い安全マップで、かつ学校の先生方で作成されているので、子どもの目線では作成されていない。したがって、再度新しく作成する予定。
- ・子ども安全に関わる「こども110番のいねマップ」も古いため作成しなおしの必要性があり、早急に再作成する。

○地域安全マップ作成・更新に向けた課題

- ・PTA地域委員会で安全マップを作成しましたが、更新していくのは難航しています。毎年地域委員が変わっていく中で、更新の方法や引き継ぎはどのようにされているのでしょうか。全員配布としているのでどのような方法がありますか？
 - ・安全マップ作りですが、保護者が一つになって子どもと一緒に作るべきだと思います。ただ、仕事や育児を理由に手伝いにこない人も多いと思います。同じ人ばかりが手伝うことになりそうに思います。
 - ・安全マップの作成にあたり、地域の方への呼びかけはなかなか困難なのでは…。山ノ内小のように先生・子ども・地域で下校してチェックするのはとてもいいと思う。
 - ・安全マップは毎年変化するので、毎年新しく作成することが必要。作成する人も幅広くすることも必要。
 - ・なぜ、紙の安全マップづくりが進められているのでしょうか。本校でも居住地としてマンションがあり、屋上や地下の問題があり、鉄道の高架下や地下街にも注意する必要があります。その意味では安全マップそのものが立体化される必要はないのでしょうか。紙マップでは限界があるのではないのでしょうか。
 - ・小学校の統合により自治会として安全マップを作成すると全学区が対象とならない。
- ### ○地域安全マップ記載内容等の問題点
- ・地域住民の方のプライバシーをどう扱うかが難しいところです。ほぼ問題になる方が警察等でも特定されている時に配布などを考えると、情報をどの程度広めるかが大変問題になります。
 - ・地域住民から安全マップについて自分の家の前が危ない所と表示してほしいという意見がある。
 - ・危険だと印された場所に住む住民への配慮をどうするのか。
 - ・洛央小学校の取組について、安全マップに「不審者発生場所」等を書き込むことは有効でしょうか。思いこませたり怖がらせたりという不安があります。
 - ・以前警察の方と地域・学校・PTAで安全・防犯について会議した際、次のような話がありました。安全マップは危険場所、犯罪が起こりやすい場所が記入されているので、それがもし外部の人間や危険人物の手に渡った場合、犯罪を起こしやすい場所を教

- えるような形になるので、配布には十分気を付けるように注意がありました。
- ・安全マップで危険なところがあった場合、行政での改良等してもらったか？また、改善されて安心が保たれているのか。
 - ・安全マップを作成しても一時的で終わってしまっていることが多い。成果は見受けられない。
- 地域安全マップの掲示・活用について
- ・洛央小では安全マップを玄関ホールに2×3mの大きさに貼っておられるそうですが、他の校区ではどのように展示も含めて活用されていますか？
 - ・我が家では地域安全マップを冷蔵庫の正面に貼り付けています。（子どもの目の高さ）

2 子ども安全活動について

○子ども見守り活動の現状と課題

- ・地域の人たち（主に女性会）が下校時に角に立ったり自転車で見守ったりしている。
 - ・登校時の見守りは問題なし。下校時の体制づくりに困っている。
 - ・凶悪な犯罪が起きてても時間の経過とともに風化している。安全活動はいわば「うがい」のようなもの。風邪をひいてからではおそいという気持ちで行いたい。（御所南小PTA）
 - ・現在ボランティア活動者は高齢者が多く、今後の継続性が一番の課題である。
 - ・子ども見まもり隊として参加してもらいやすい方法は？登録者は多いが実際に出てくれる人が少ない。
 - ・2年前に自治連によって立ち上げていただき、当初はメンバーも70名ほど参加していただいたが、最近ではメンバーが減ってきている。週によって子どもたちの下校時刻が変わることがあり、その都度連絡を回すのが大変。
 - ・見まもり隊は発足して活動もしていただいておりますが、メンバーの募集や確保は大変です。見まもり隊の運営はどのようにされているのかお伺いしたいです。（自校はPTAが受け皿となり人員配分しています。）
 - ・現在の組織はボランティアの方々を中心であり、高齢者が多く今後の継続性が課題である。
 - ・180名のパトロール隊を10班に分けて、毎日下校時に活動していますが、意識の低下か4~5名しか参加者がいないときがあり困っています。協力者の高齢化もあると思います。もっと若い方の協力も得られないものか！子どもを持つ親の意識がもっと必要だ。（常磐野小学校子どもたちを守るパトロール隊）
 - ・最近では地域の安全は地域での意識が高まっている。PTAも地域への協力が不十分ではないか？
 - ・保護者の大半が仕事を持たれている昨今、下校時のパトロールの際、地域とPTAの参加数はいかなるものか教えていただきたいです。どうしてもPTAの参加率が低いのですが、他の学区ではどのような方法をとられているのか疑問です。
 - ・下校時の安全のために見守りポイントを設けてPTAと地域ボランティアで見守ってほしいと話しているところですが、実際は共働きの家庭も多く無理にお願いすると継続は難しくなります。何かいい案はありませんか？
 - ・保護者の中では、仕事があるため登下校時のパトロールなどに参加できないと最初から他の人に任せきりという感じの人が多くいます。まるまる一週間仕事ではないはずで、なんとか無理のない形で仕事が休みの日などに参加してもらうにはどうしたらいいのでしょうか？
 - ・子どもの安全活動は保護者と子どもの両方で行いたいと思う。子どもは教育活動の中で取り組むことができるが、保護者を巻き込むことはなかなか難しい。親は昼間仕事などで地域にいない場合が多い。
 - ・見守り活動をしたいが、PTAの協力が希薄で、そのため地域の方の協力まで危ぶまれている。どうすればみんなで見守っていけるだろうか。
 - ・通学路での登下校時、休校日等の時間別の防犯面での分担状況はどうしてられますか？
 - ・下校時の見守りは時間が長い。どのような方法で実施されているか知りたい。当学区はポイントでの立番とパトロールを併用している。（花園学区）
 - ・学区で見まもり隊として活動しているが、少人数でありその上下校時は時間が長い。また、教員方は見まもり隊のことを認識しているのか？
 - ・地域の協力者としてPTAの方々ともっとコミュニケーションがとれる方法を知りたい。
- 見守り活動の継続に向けた工夫
- ・小学校を卒業した中学生の活動（中学校としての取組）も必要かもしれません。（小中連携の面からも中学校への働きかけも必要。）
 - ・犬の散歩を登下校時に、門掃きのついでに見守り活動をお願いしている。
 - ・地域への働きかけが大切。特に高齢者は散歩をよくしているし、これらの方々の活用も考えられてはいいかがでしょうか。
 - ・見まもり隊の活動を継続するために登下校時の割り当てを行っている。各隊員が出にくい時は事務局に連絡して休んでもらうようにしている。
 - ・下校時間は仕事をしている保護者が多いので、地域の方々のお世話になっている。
 - ・PTAを中心に各家庭に、児童の登下校時の朝は8時頃と夕方4時頃には、道路に出て「おはよう」「おか

- えり」の声かけ運動の意識を高めています。
- ・嵐山小学校ではパトロールボックスを3年前に設置して、毎日、各種団体で登校時から下校時（7：50～16：30）まで見守っている。
 - ・青色パトロールを使用する車両を警察に登録して、毎日定期的に児童の下校時に合わせて学区内全体をパトロールしている。
- 見守り活動と子ども（コミュニケーションに関して）
- ・見守り活動をしていて朝「おはようございます」とも言わない子どもが少しいます。でも多くの子どもたちは、道で会ったら「パトロールのおばちゃん」と声を掛けてくれてうれしいです。
 - ・子どもたちの立番をしている地域の人たちへの言葉遣いを親と学校に指導してほしい。
 - ・子どもの安全に対する知識や意識をいかに高めていけるか。
 - ・地域の子どもの下校時など、危ない歩き方をしているとつい声を掛けてしまうのですが、IDカードをしていないと不審者として扱われることもあります。人は基本的に信頼できるものという気持ちを持ちつつ、自分の安全を守るとするのは難しいでしょうか。
- 見守り活動と行政との関係
- ・行政と現場の理解に開きがありすぎる。
 - ・不審者の情報が少ない。学校と保護者が隠している。警察の情報も少ない。
- その他
- ・統合校のため地域活動は旧学区ごとになる。
 - ・現在PTA主体で子ども見守り活動が実施されていますが、11月より嵯峨安心安全ネットワーク協議会の地域全体で活動します。しかし、嵯峨は観光地で観光シーズンは大変な混雑です。その季節はどのように対応して活動すればよいのでしょうか。
 - ・登下校時の車の駐車禁止のお願いなど、安全の妨げになるものの排除等はどのようにされていますか。
 - ・多くの学区で登下校時に旗を持った人が立っているが、子どもや道行く人にどこまで注意してもいいものなのか？笛を吹いての注意は、ちょっとびっくりすることがある。
- 3 その他**
- 下校後の見守り活動等
- ・下校後の行動について、公園等で遊んでいる子どもたちがかなりいます。帰宅時刻を5時に決め、強制的に帰しているが如何でしょうか。
 - ・下校後の児童の行動範囲が広く、これにどのように対応するか。また、部活後の下校児童をどう見守るか。（特に秋冬は日が短く帰宅時は暗い。）

- ・登下校時間外の子どもの安全安心のガードをどうすればよいのか。
 - ・明るい時間は安心だが、太陽が落ちて暗くなってから（5時～6時頃）の見守りができていない。この時間帯に事件が起きているという実情がある。
- 子ども安全と広報活動
- ・学区内にお住まいの私学等に子どもを通学させておられる家庭に、安全活動の詳細を知らせるには、町内の回覧板くらいでよいのだろうか？
 - ・広報紙をどのように活用しているのか？紙面の内容について。
- 「こども110番のいえ」との連携
- ・「こども110番のいえ」の表札が付けてある家があるが、実際子どものことを認識しているか疑問である。
 - ・「こども110番のいえ」に毎月学校だよりを持っていくことで、連携が保たれている。
- 活動中の補償
- ・保護者がパトロール中に事故にあうとかがあった時は、どこが誰が補償してくれるのでしょうか？みなさんたちはどうされているのでしょうか。
- その他
- ・地域の子どものには私学の子も公立の子も変わりがない。私学の安全教育も参考にしているものがあるのではないか。
 - ・子どもの登下校時の安心安全だけでなく、帰宅後の過ごし方、例えば自転車でのマナーの低さ、交通ルールを守らない等の問題解決。
 - ・中学生・高校生・大人の自転車のマナーがすごく悪いです。親としてはイヤですね。よい見本となしてほしいです。
 - ・大きく環境浄化という観点から社協で公園美化活動の標語を作っています。続いて地域全体の環境浄化も進めていきたいと思っています。
 - ・各学校への質問。どこの学校も毎朝、校長や教頭などが校門に立ってあいさつをしているのでしょうか。
 - ・環境問題をテーマにしたある講演で、白熱灯に比べ蛍光灯の方が8時間以上身体に浴びるとストレスがたまると聞きました。犯罪者を作らないための工夫として、家の中でも白熱灯を使用するようにしてはどうでしょうか。
 - ・区域外通学の児童や総合支援学校の児童、障害のある児童等の安全を考えるとどのような対策が考えられるのでしょうか。例えば、本人がバス通学で乗り越してしまい、尚かつ情報が伝わらない時などの安全はどう考えればよいのでしょうか。
 - ・出口プランについて。

第3回 京都市スクールガード養成講習会

無理なく「見守り活動」を継続させるためのヒントがここにある!!

日 時	平成19年11月7日（水） 午後3時から午後5時まで		
会 場	京都市北文化会館（京都市北区小山北上総町）		
主 催	京都市教育委員会		
共 催	京都市子ども安全会議		
対 象 者	見守り活動等を行っているスクールガードの代表及び教職員		
参加人数	250名		
内 容	実践発表 松ヶ崎小学校 校長 白石 悦徳		
	パネルディスカッション テーマ「見守り活動と地域安全」		
	・コーディネーター：	京都産業大学大学院 教授	藤岡 一郎
	・パネリスト：	（学校）朱雀第三小学校 校長	赤羽 清
		（地域）六原学区自治連合会 事務局長	菅谷 幸弘
		（PTA）松ヶ崎小学校学校運営協議会会長	佐藤 佐
	（関係機関）文化市民局地域づくり推進課 まちづくりアドバイザー		佐藤 友一

実践発表

松ヶ崎小学校 校長 白石悦徳

松ヶ崎小学校の白石と申します。パワーポイントの操作を副教頭の角井が担当いたします。

実は私松ヶ崎小学校に昨年の4月に赴任をしました。赴任したときに保護者やPTAの何人かから、こんな話を伺いました。校長先生は子どもの安全をどのように考えておられますか、もしも何かがあった時に校長としてどのように責任を取ってくれるのですか、という大変厳しい言葉を着任早々いただきました。丁度その前年には、子どもが犠牲になる事件が発生しており、松ヶ崎の周辺でも見守りの活動が、その前年平成17年度から立ち上がっていたところもあり、この声はそういった動きが学校にないという苛立ちの表れだったのかなという事を思いました。

先日加古川市で子どもが犠牲になる事件が発生しました。その時テレビの報道で保護者のこんなコメントがありました「学校としてもっと厳しく見守ってもらわなければ困る」というふうなコメントでした。そのあと校長先生のほうで、これは学校だけの問題ではなくて、地域ぐるみで対応していかなければならないというご意見もありました。社会的に凶悪な事件については学校だけではとても対応しきれません。ということで、これは学校・保護者・地域、つまり地域ぐるみで対応していかなければとても対応できない問題でもあります。

そこで本校でも、着任早々ぜひ見守りをやっという事を決めました。しかし松ヶ崎で無為無策でしたわけではありません。実は30数年間にわたって子どもの安全指導という事で、毎日一年を通して立っていただいている地域の方もいらっしゃいます。子どもたちからは「三宅のおっちゃん」と親しまれている方ですが、この方が、唯一地域で子どもの見守りを続けていただいています。

PTAでは、下半期に地域委員会が中心になって安全マップを作ったり、子ども110番のお願いにあがったりして、学校安全会議の第1回目も立ち上がっていたところでした。でも具体的に、子どもの見守りをしているという声はなかったです。そして地域的にも大変古い地域と、新しく開けた地域が一緒になっていますので、どちらかという地域の方、地元の方は松ヶ崎は田舎だからそんな危険なことはないだろうというふうな意識があったのは確かです。

そこで4月早々、そういったお声をいただき、何とか見守りを立ち上げようと、とりあえず、学校とPTAが

中心となって、保護者の皆様に見守りの協力を募集しようということになりました。それで去年の4月は、児童数で380人おりましたから、380枚の子どもの見守りに協力してくださいというお願いを配りました。すると集まったのは、期待に反して20枚でした。380枚配って20枚です。その20枚の内訳が、実は子どもが3人おれば3枚出してくださって、2人おられれば2枚というふうに、実質の家庭数は280世帯で、協力を申し出ていただいた方は14世帯でした。非常に厳しいスタート、これのできるのかとすごく考えました。

それでも、やっていかないといけないということで、5月から始めました。最初は学校の教職員もたくさん出てくれましたし、PTAの本部役員さんを中心に出ただいて始まったのですが、やはり数が少ないんです。校区も広く、これは何とか広報活動をしっかりしていかなければならない。本校では地域ぐるみの学校づくりということに取り組んでいるのですが、地域や保護者の方は学校が取り組んでいることを、あまりご存じない、学校はあまり情報を発信していないと思っておられるのです。本校ではとにかく包み隠さずいろいろなことをどんどん発信していくかということで、この安心安全についても新聞を作りました。

「松ヶ崎あんしんネットワーク通信」で、サンプルを資料に入れさせていただいています。この新聞で何とか保護者や地域の方に活動を知っていただきたいと、そして協力していただきたいということで、これを隔週刊にしました。2週間に1度発信します。すぐに読める簡単な内容にして、いつも繰り返す言葉は同じ、出来る時に、出来る時間に、出来る所でお願いしています。

そして、子どもの安全から地域の安心安全もまちづくりに発展させましょうという事を一所懸命訴えました。ネットワークにこだわったというのは、活動の名前はどうかと、ネットワークは多いと思いますが、松ヶ崎はこだわったんです。つまり学校やPTAだけがしているようでは、まちづくりにならない。だからネットワークを広げよう、つまり地域の各種団体から、保護者の皆様から、地域住民の方いろいろな方に、このネットワークを広げていただきたいという思いで、ネットワークという通信を始めました。

この新聞は非常に効果があったと思います。自分ではできないけれども、写真を見ると、人が立っている、ご苦労さんだな、自分は協力はしていないけれども、人の協力の様子は良く見えるというもので、これは一

つの武器になりました。普段着で立っていただくと、子どももわかりませんので、変なおっちゃんから声を掛けられたとなります。黄色とか黄緑のウィンドブレーカーを着ていないのでわけがわかりません。それでシンボルマークを作ったらどうかと、キャラクターを作ろうということで、本校の職員に「ワンちゃんマーク」見守り犬ということでこういうデザインを描いてもらいました。これを作るのは大変でした。一枚原画を描いてもらい、それを各団体お願いしにまわりました。最終的に20団体の方が協力していただきましたが、20団体分作らないといけません。1枚しか原画がないと、何十枚もコピーして台紙の上にずーっと置いて、そして各団体の名前を書いてコピーをします。毎晩、夜なべ仕事で何百枚作りました。結局たくさんの団体の方が協力していただき、今、私がしているものを、たくさんの方にさせていただけるようになりました。

これはかわいらしいもの、皆が着きたいなと思うもの、私もほしいわというようなものと作ったのですが、結構これが人気になりました。町内会で募金を集めに行く時に、これを着けていると、すっとお金を出してくれるようになったとか、いちいち説明をしなくてもすぐ集金ができるようになったと、いろいろと効果が出てきました。大型スーパーに行くと、時々これをぶら下げている人がいらっしゃいます。そういう時には手を合わせて拝みたい気持ちですね。一年たって、町内では比較的一般的になってきたと思います。犬の散歩で着けていただいているのですが、結構犬の散歩も多く、各種団体の方ではない方でも協力していただける方にいろいろ広げていただいて、犬を連れながら「ワンちゃんマーク」をぶら下げているという方も結構いらっしゃって大変ありがたいと思っています。

ネットワークを広げるといことで、各種団体にお願いがありました。地域団体だけではなくて、うちの学区には国立の工芸繊維大学がありますが、ここにもお願いしました。ここにも松ヶ崎発見実行委員会という小学校と中学校と大学の連携の組織があり、この学生さんにもネームプレートを着けてもらうこともしています。学校に来ていただく保護者はもちろんです。これは一つのアイデアだなと思っています。

本校の見守り活動の基本は毎日です。自分が出る時に、できる場所ですでにいただきたい。だけど見守りは人に見せないといけないものです。大々的にこの地域は、子どもの安全安心に関心があり、見守り活動が行われているという事が予防につながっていると思いますので、本校では毎週水曜日に、一斉行動日ということで取組をしています。

本年度から下校時の見守りもしていかなければならないということで、これも木曜日の午後、学校が早く終わる日、職員会議、研修会などの日に、PTAが中心

となって取り組んでいただいています。ネットワークで20団体になったのですが、それぞれに私がお願いに行ったとしても、一堂に会する場がなかったのです。何とか総会をしたいということで、協力団体が一堂に会して子どもの安全を守っていこうと、安心安全のまちづくりをしていこうということを確認したいということで、総会をしました。

今日コーディネーターをしていただく、藤岡先生にお越しいただき講演をお願いしました。この人集めが大変心配されたのですが、最初はふれあいサロンという小さい教室でしょうという話だったのですが、それでは最初から目標が小さいので、体育館でしょうということに決めました。地域の方と、PTAの方がほとんど同数でほぼ体育館が満員になるくらい集まったのスタートとなり、大変良かったと思います。藤岡先生の言葉が今でも印象的です。

松ヶ崎は「妙法」の法の下にある地域だから、規範意識をしっかりと育ててくださいということは今でも覚えています。そのとおりだと思います

子どもの安全には関心をもって協力していこうという方にはこの松ヶ崎版子ども110番というのを作っています。これも昨年PTAの地域委員会にたくさん配っていただいたり、取り組んでいただいたりしました。

この一年間取り組んできて、どこの地域でも同じだと思いますが、最初は活動が盛り上がってきます。しかし半年、一年経つと、協力者が固定化していくという傾向はどこでも同じではないでしょうか。松ヶ崎も今年PTAが新しい本部になり、非常に高い関心を持っていただいている、この見守り活動の事を考えていただいています。そして一年が経っていろいろな課題が見えてきました。それは人が増えないということです。協力をしていただける方は、一生懸命、地域の方も保護者の方もおられますが、数が増えないというのは大きな問題です。

学校評価というものがあります。学校は子どもの安全のために取り組んでいますかという質問をしましたところ、これはAとB評価が圧倒的に多く、このあんしんネットワーク通信のおかげかなと、皆さんから、良く取り組んでいただいているという評価をいただきました。

ところが下の方を見てください。「あなたは松ヶ崎のあんしんネットワークの子どもの見守りたいの活動に参加した事がありますか？」というこの問いについては、AとB評価が非常に少ない。4割です。どちらかといえば出たことがある、とはBです。C・D・Eの評価は6割です。つまり大半の人は参加していないということが明らかです。これは何とかしなければならぬということで始めたのが、現在、取り組んでいただいているPTAの見直しです。

どのあたりを見直すかという点、これまでは地域全体、校区全体を皆で見守ろうということで、あるポイントを決めて見守ってきました。

見守りの基本的な場所は、自分の自宅の前でもいいのです。しかし強化地点、周囲に見せる必要もあるので、車がたくさん通る所、人がたくさん通る所で、うちの地域は見守りしていますよと見せなければいけません。しかし人が少ないところもありましたので、今年から取り組んでいる最中です。昨日もその会合をしていましたが、地域ブロック制ということに移行していきます。小学校には町別児童会があり、町別に保護者の方・地域の方が自分の町内の子どもたちを見守ります。すると狭い範囲で、人間関係も狭い町内の人間関係で、子どもたちもよく知っている中で、10ブロックに区切り、ブロックごとに見守りをしていこうと、そのために皆が集まって話し合い、当番を決めよう、やり方を決めようと、グループ集会が今週始まったところでした。

資料にも載せていますが、PTAの広報活動も盛んにしていただきました。PTAだよりの特集号を何回も組んでいただき、保護者に啓発として協力をお願いしました。これが大変すばらしい会報で、学校の手紙より非常にわかりやすい、説得力があるということで、非常に効果的な広報活動です。エコバッグを作って配ったり、いろいろなアイデアを出して、今、活動しています。

先日は、子どもの絵の暴力禁止として、CAPのワー

クショップについても、スタッフの方に来ていただき、低学年の子ども用、保護者向けにもロールプレイを使った研修をしました。これは大変わかりやすいと思いました。ロールプレイというのは、お話だけではなくて説得力があると思いました。

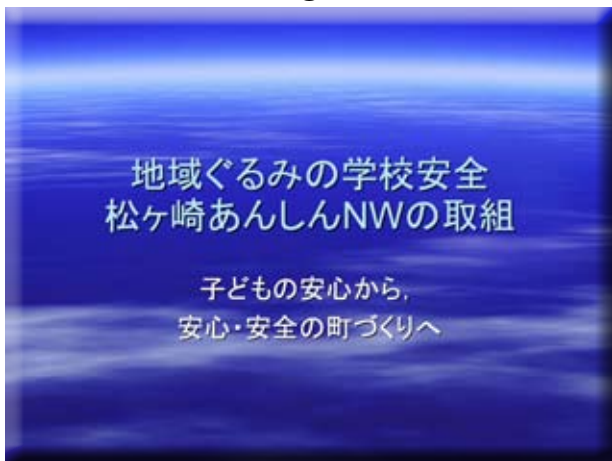
最後に、先週のPTAの集まりの時に考えたアイデアなのですが、よく門口にNHKや日本赤十字社の小さいステッカーが貼ってあります。大きなマークは貼りにくいが小さいものだったらということで、小さい「ワンちゃんマーク」を作りました。これだったら郵便受けにも門口にも貼っていただけるかなと、協力していただける家に、これを貼ろうということを考えています。時々、猛犬注意というのがありますが、これは「ワンちゃんマーク」です。

見守りは労力が必要です。皆さんに負担をかけてしまいます。労力を使わずに、知恵やアイデアで、こういったものが松ヶ崎の学区中ベタベタと黄色くなるぐらい貼ってあれば、この地域は防犯にもものすごく力をいれているというアピールになります。これも一つのアイデアで、進めていこうと話しています。

課題は継続と拡大です。大変な場面があっても、アイデアによってそれが改善できると思っています。私はアイデアを形にして広めようと、PTAと学校で取り組んでいます。そして地域の大きな支援をいただいて、取り組んでいるところです。まだまだ不十分ですが子ども今後がんばって取り組んでいきたいと思っています。



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪

学校評価(保護者)

